



診療科のご案内

2023



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

基本理念

当センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担います。



法人の理念（ミッション）

当センターでは、以下のビジョンの下、その実現へ向けた取り組みを行っております。

【法人のビジョン】

【ビジョン実現への戦略】

高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供

- ・ 医療モデルの確立と普及
- ・ 医療の標準化、治療法の開発

・ 重点医療の提供

- ・ 急性期医療の提供
- ・ 地域連携の推進
- ・ 救急医療の充実

高齢者医療・介護を支える研究の推進

- ・ 研究成果を活かした高齢者の心身の特性に応じた医療の提供
- ・ 高齢者の健康増進と健康長寿の実現

・ 老化のメカニズムと制御に関する研究

- ・ 重点医療に寄与する研究
- ・ 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究
- ・ 産・学・公の連携

高齢者医療・介護を支える専門人材の育成

- ・ 法人職員の人材育成
- ・ 地域の医療・介護を支える人材の育成

- ・ 高齢者の疾病特性に精通した医師、看護師、医療技術者の育成
- ・ 老年学・老年医学をリードする研究者の育成

法人事業を維持・発展させる経営基盤の確立

- ・ 効率的な運営管理体制の確立
- ・ 自立的経営の実現

・ 診療・研究体制の弾力的な運用

- ・ 安定した収入の確保、適切なコスト管理
- ・ 都民のニーズの変化に対応した事業の実施

高齢者の健康増進・健康長寿の実現を目指して

- 1) ご挨拶 1
- 2) 施設概要 3
- 3) 医療実績（令和4年度） 4
- 4) 当センターの歴史 5
- 5) 当センターの特色 6
- 6) 紹介・予約方法 7
- 7) はじめて受診される方 9
- 8) 救急外来のご案内 10
- 9) 検査のご案内 11
- 10) 検査予約システムのご案内 13
- 11) 診療科のご案内 14
- 12) 医療連携係のご案内 74
- 13) 連携医制度のご案内 75
- 14) 施設のご案内 77
- 15) 各種電話番号 80



1 ご挨拶

センター長 許 俊鋭



東京都健康長寿医療センター病院は、176名の常勤医師、112名の非常勤医師、514名の看護師、274名の医療技術者など1,240名の職員で運営している急性期病院です。

当センターは、これまで高齢の方に多い心血管医療、がん医療、認知症医療を3つ重点医療としておりましたが、令和5年に始まる第4期中期計画からは高齢者糖尿病を加え4つの重点医療としました。その他の疾患についても優秀なスタッフと十分な診療設備を備え、救急医療にも力を入れ、小児科、産科関連疾患を除くすべての疾患の診療を行っています。

2013(平成25)年6月に新しい病院に移転いたしました。移転に際しPET-CT、320列CT、3テスラーMRI、ハイブリッド手術室など最新の設備と技術の導入をしました。昨年は、高精度放射線治療装置(Vital Beam)を導入し、画像誘導放射線治療(IGRT)、定位放射線治療(SRT)、強度変調放射線治療(IMRT)を導入し、より安全に精度の高い放射線治療を行えるようになりました。高齢者血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植や臍帯血ミニ移植、血管再生療法、遺伝子診断に基づく医療など以前から最先端医療も手掛けてきましたが、新病院への移転を機にさらに種々の分野におきまして医学の進歩を取り入れた最新の医療を提供しています。内視鏡手技やカテーテル手技を駆使した低侵襲手術の導入にも積極的に取り組み、豊富な経験を生かした専門性の高い内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や超音波内視鏡下穿刺術(EUS-FNA)、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療や経皮的動脈弁置換(TAVI)、経皮的冠動脈形成術(PCI)、高周波心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)などもここ数年間で症例数が飛躍的に増加しています。

2020年から始まったコロナパンデミックに対しては、当初から検査科ならびに研究所のゲノム解析チームを総動員して24時間PCR検査体制を構築し、都西北部二次医療圏で急性心筋梗塞、脳卒中、大動脈破裂や外科的救急疾患など緊急手術を必要とする患者さんを積極的に受け入れると共に、最重症コロナ症例に高度なECMO治療を提供して参りました。

当センターは、患者さん、ご家族の方々への十分な説明に基づく同意を頂いた上で、(1)質の高い医療、(2)退院後の"生活の質"を考慮した医療、(3)地域の医療機関・介護施設との連携した一貫した医療を提供しています。退院に際しましても、退院後の生活が円滑に行えるように最大限の支援をさせて頂いています。

当センターに受診を希望される場合は、是非かかりつけの先生の紹介状をご持参ください。連携医の先生方はC@RNAシステムを用いてWEBで直接初診外来予約を取って頂く事ができ、予約の際には同時に高度な放射線画像検査や超音波画像検査の予約も取って頂く事が可能です。

ご高齢の方、また中高年の方々が活動的な高齢期を迎えられるように、日進月歩の医学・医療の進歩を取り入れ、安心かつ安全な医療を提供させて頂くようスタッフ一同真摯な努力を積み重ねております。より多くの方々が、当センターをご利用下さるようお願い申し上げます。

副院長 時村 文秋



連携医の皆様には日頃より大変お世話になっております。

地域連携の強化を目指して、2022年度から、内科系の荒木副院長との副院長2名体制としております。

超高齢社会を迎えるにあたり、生涯、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、医療及び介護サービスなどを地域で一体的に受ける地域包括ケアシステムを構築することが喫緊の課題とされております。病床機能分化と連携の推進、介護との連携強化は、地域包括ケアシステムの構築の重要な位置付けとなってきています。

2020年より始まりましたCOVID-19感染に対しては、許センター長の強力な指導の下、病院・研究所が一体となって対応してまいりました。幸いコロナ感染は徐々に収束に向かっていると思いますが、2023年7月の時点でも当センターでは集中治療室1床を含むコロナ病床26床中、8割以上の病床を利用しています。

新たなスタッフも加わり、引き続き、感染に十分注意しながら、通常診療も行っておりまして、連携医の先生方には、今後ともご指導・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

2 施設概要

名称

東京都健康長寿医療センター

所在地

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

電話番号

03-3964-1141（代表）／FAX 03-3964-1392（連携係直通）

開設者

理事長 鳥羽 研二

開設年月日

平成21年4月1日

センター長

許 俊鋭

職員数

医師122人 歯科医師3人 看護師484人 医療技術187人 その他94人（令和5年4月1日現在）

診療規模

医療法定床 550床（一般 520床 精神 30床）

外来患者数

740人/日（令和4年度）

平均在院日数

11.8日（令和4年度）

診療科目

【内 科 系】

総合内科・高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科・透析科、
糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、
脳神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科

【外 科 系】

外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、
泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科

【その他部門】

リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急診療部

【老年症候群外来】

もの忘れ外来、さわやか（排尿）ケア外来、骨粗鬆症外来、補聴器外来、嚥下外来、
ポリファーマシー外来、在宅支援外来、フレイル外来など

* 診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置

* 下線各科は、標榜診療科以外の名称

救急体制

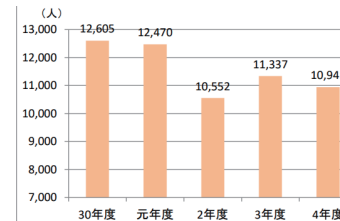
東京都指定二次医療機関（全夜間・休日救急）

東京都CCUネットワーク・急性大動脈瘤スーパーネットワーク・東京都脳卒中急性期医療機関

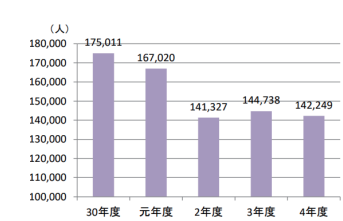
医療実績（令和4年度）

3

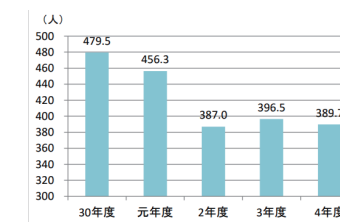
新入院患者数



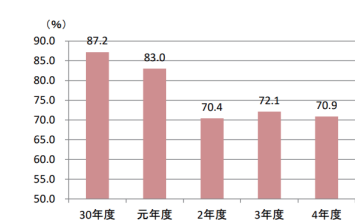
延入院患者数



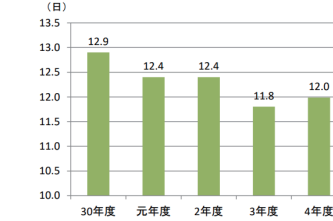
1日平均入院患者数



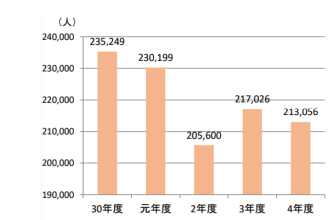
病床利用率



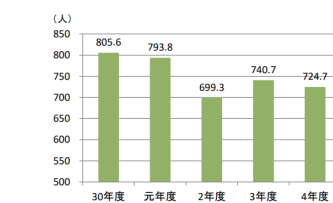
平均在院日数



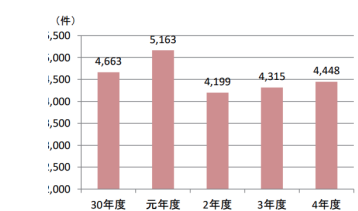
延外来患者数



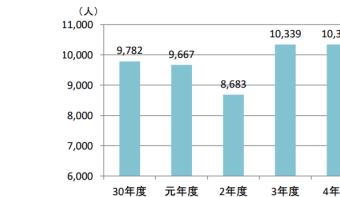
1日平均外来患者数



手術件数



救急患者数



4 当センターの歴史

渋沢栄一と当センターとの関わり

明治の初め、首都東京の困窮者、病者、孤児、老人、障害者の保護施設として現在の福祉事業の原点ともなる養育院が設立されました。

養育院の創立は、養育院設立時の東京府知事大久保一翁（忠寛）が幕府の目付だったときに立案した、西洋風の・幼院・病院設置プランにさかのぼります。そのときに資金源とされ、養育院の設置資金にも使われたのが、松平定信が定めた江戸の貧民救済資金「七分積金」でした。明治になり、当時七分積金（営繕会議所共有金）の管理を担当していたのが「日本資本主義の父」渋沢栄一でした。

渋沢栄一は1874（明治7）年より養育院の運営に関与し、1876（明治9）年5月11日に養育院事務長に任命されました。養育院は、1890（明治23）年、東京市営となり、渋沢栄一は養育院長に就任しました。以来91歳で亡くなるまで約50年間院長を続け、養育院廃止論の逆風を受けながら養育院を存続させ、分院・専門施設を開設して事業を拡大しました。

松平定信・大久保一翁・渋沢栄一と受け継がれてきた江戸・東京の福祉事業の歴史は戦後もつづき、現代の東京都健康長寿医療センターの設立につながっています。

当センターの入口近くに渋沢栄一の銅像が飾られています。銅像は1925（大正14）年に制作され、栄一本人も出席して除幕式が行われました。



養育院長（明治22年～昭和6年）
渋沢栄一



板橋区登録有形文化財
渋沢栄一銅像

	高度医療	医療福祉
初 期 -創立以前-	江戸時代に幕府が江戸に設置した無料の医療施設「小石川養生所」が1722年に設けられる。	寛政の改革（1787～1793）に不時の災害時の江戸市民の救済のために七分積立を行い運用し、維新後、明治政府・東京府に引き継がれた。
江戸時代～明治維新	東京医学校（現：東大医学部）との連携	明治5年に創立されて以来129年に及ぶ事業の歴史を持ち、日本の社会福祉事業の中で、先駆的・先導的役割を担う養育院の創立
開拓期 -福祉事業の確立- 明治～戦前	精神病、ハンセン氏病、結核などの対策、研究	初代院長渋沢栄一の尽力による施設運営の地盤固め
変革期 -高齢者福祉への転換- 戦後～平成21年	昭和47年 老人総合研究所設立 昭和56年 財団法人東京都老人総合研究所に改組 平成14年 財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所に改組・老化・老年病の自然科学的研究 高齢者と社会の人間科学、社会科学的研究	昭和47年 東京都養育院附属病院設立・昭和61年東京都老人医療センターに改名・最新の医療設備（CT、MR、PET） 高齢者リハビリテーションの展開
新生期 -医療と研究の融合- 平成21年～平成25年	都の組織改訂により、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センターとなる。	
新時代へ -新病院開院- 平成25年～	東京都健康長寿医療センターは、病院と研究所が一体となって、高齢者の健康増進と疾病治療、予防を推進してまいります。	

当センターの特色

病床550床

都内トップクラスとなる550床の病床数（一般520床／精神30床）を設けています。

24時間体制救急

二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に救急診療を行っています。

ICU（特定集中治療ユニット）CCU（冠動脈治療ユニット）SCU（脳卒中ケアユニット）の設置

特定集中治療室を設置し、より効果的な治療を実施します。

28科の診療科100名以上の医師数

内科・外科に留まらず、高齢者の全身疾患に対応する充実の診療科を備えています。

7対1看護取得

手厚い看護を実現するため、7対1看護を実践しています。

医療機能

地域の治療ニーズにマッチ、
高齢者医療の先端

光・緑・水にあふれた
癒しの環境

療養環境

光

- ① 障子からの柔らかな光を取り入れた病室
- ② 自然光を取り入れた心地よいスペース
- ③ くつろぎ空間を生み出すこだわりの照明

緑

- ① 外来・入院患者さんの憩いの場である屋上庭園
- ② 春になるとセンターの周りは沢山の桜が咲きます。

水

身近な生き物を呼び戻すためのビオトープを設け、患者さんや地域の方々の憩いの場となるようにしています。

アート

著名作家によりアート作品を院内の様々な場所に設置し、患者さんやご家族の方々に楽しんでいただくようにしています。

6 紹介・予約方法

当センターでは、高度専門医療・急性期治療を一人でも多くの患者さんにお受けいただけるように「紹介予約制」を原則としております。当センターへ患者さんをご紹介いただく際は、事前に受診予約をお取りいただき、かかりつけの先生からの紹介状をお持ちのうえ、受診いただくようお願いいたします。

なお、当センターでの治療後、病状が安定した患者さんには、当センター医師の判断のもと、紹介元のかかりつけ医へご紹介させていただきます。（かかりつけ医をお持ちでない患者さんは「かかりつけ医紹介窓口」にてご自宅近くの連携医の先生へご紹介させていただきます。）

その後、患者さんのご病状に変化があった場合には「かかりつけ医」と当センター医師が連携して治療にあたらせていただきます。

通常の外来予約



ご予約の際は、患者さんのお名前・生年月日・お電話番号をお知らせください。当日のご予約はお取りしておりませんのでご了承ください。

「外来予約室専用電話」 03-3964-4890（平日 9：00～17：00）

ご病状により、お早めの受診をご希望の場合には、医療機関より医療連携係までご相談ください。できる限りご希望に添えるよう調整させていただきます。（患者さん個人からのご相談はお受け付けしていません。）

〔医療連携係直通電話〕 03-3579-6963（平日 9：00～17：00）

緊急受診・緊急入院のご相談



原則として、各診療科の連携当番医が直接お電話をお受けいたします。
代表番号（03-3964-1141）におかけのうえ、電話交換手へ

『緊急受診（入院）の依頼です。〇〇科の連携当番医につないでください』

とお話してください。

医師が直接お電話で病状等のお聞き取りをいたします。

入院（緊急を除く）・転院のご相談



まずは医療連携係までお電話のうえ、FAXにて診療情報提供書をお送りください。連携当番医へ確認のうえ、できる限り速やかにお返事いたします。

〔医療連携係直通電話〕 03-3579-6963（平日 9：00～17：00）

[医療連携係直通FAX] 03-3964-1392

脳卒中ホットライン

脳卒中の発症が疑われる場合にご活用ください。

脳神経外科医（夜間・休日は神経系当直医）が直接お電話をお受けいたします。

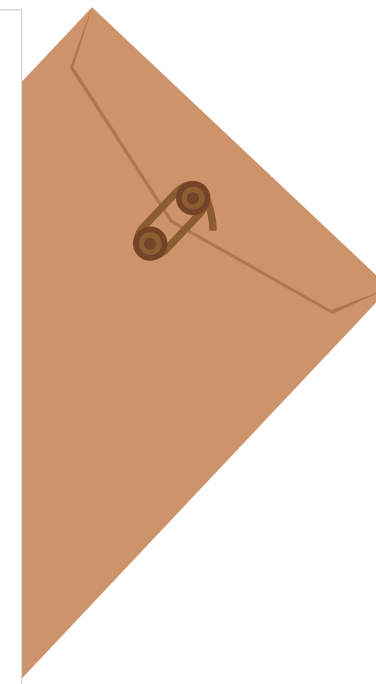
「脳卒中ホットライン」 080-4116-1141



ご提出いただく紹介状（診療情報提供書）

様式は問いません。普段からご利用されている紹介状（診療情報提供書）でお受けいたします。ご用意がない場合には、以下の紹介状様式（複写式）をお送りいたしますので、ご用命の際は医療連携係まで必要部数をお申し付けください。

〔医療連携係直通電話〕 03-3579-6963（平日 9:00～17:00）

[illegible]

7 はじめて受診される方

受診方法

当センターでは“全科予約制”を原則としております。受診をご希望される方は、外来予約専用電話にお電話いただき、ご予約をお取りください。その際に、受診されたい診療科名・ご希望の受診日時をお知らせください。

〔外来予約室専用電話〕 03-3964-4890（平日 9:00～17:00）

なお、夜間・休日などの予約外に緊急で受診をご希望の場合には、必ず事前に代表電話へご連絡ください。

〔代表電話〕 03-3964-1141（上記以外の時間帯）

受診時に必要なお持ち物

項 目	紹介状	健康保険証	後期高齢者 医療被保険者証	介護認定証	難病等 公費負担医療証
はじめての 受診時のとき ※他の診療科を 受診する際も同様	✓ 前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	✓	✓	✓	✓
前回受診から 3か月以上経過 しているとき	✓ 前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	✓	✓	✓	✓
毎月最初に 受診するとき	✗	✓	✓	✓	✓

紹介状（診療情報提供書）持参のお願い

初診の際は、かかりつけの先生の紹介状をお持ちのうえ、受付にお越しください。紹介状をお持ちでない場合には、選定療養費（初診医科7,700円/歯科5,500円、再診医科3,300円/歯科2,090円）をご負担いただきます。

当センターは、地域における急性期医療の基幹病院でありたいと考えております。そのため、慢性的な病気や普段の健康管理はかかりつけの医療機関にお願いし、専門的な検査や診察・入院が必要な治療を当センターが担当しております。

かかりつけの先生からの紹介状は、患者さんを知る有効な診療情報となりますので、できる限りお持ちくださいますようお願い申し上げます。

ただし、緊急その他やむを得ない事情により、他の保険医療機関からの紹介によらず来院した場合には、この限りではありません。

救急外来のご案内

8

当センターは、二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に、救急診療を行っております。東京消防庁とホットラインでの対応もしております。

医師が緊急処置中の場合や、患者さんの症状によっては診察できない場合がありますので、受診をご希望される際は、必ずお電話にてお問い合わせください。電話 03-3964-1141（代表）

受診にあたっての注意事項

救急外来で診察をご希望される場合は、以下の内容をご一読いただき、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

- 診察の順番は、緊急度や重症度を優先しますので、お待ちいただく場合がございます。
- 救急車の利用有無は、診察順に関係ありません。
- 初期の診察は外来診察とは異なり、原則として救急の医師が行います。
- お薬の処方は、必要な分（休日分や一晩分）のみお出しします。
- 診断書等は、原則として救急外来では発行いたしません。後日、文書受付にてお申込みいただく必要があります。（交通事故の診断書を除く。）

受診の流れ

電話連絡

代表番号（03-3964-1141）にお電話のうえ、救急外来を受診されたい旨をお話してください。

お電話による 確認事項

受診にあたり、以下の内容を確認させていただきます。

- 受診される方の氏名・性別・年齢
- どのような症状で受診を希望されているか
- 当センターに受診されたことはあるか
- 当センターに来院まで何分くらいかかるか
- どのような交通手段で来院されるか
- どなたがお付添いとして来られるか

お持ち物 ご確認

受診することが決まったら、以下のお持ち物をご用意ください。

- 健康保険証、医療受給者証・公費医療券（お持ちの方）
- 診察券（過去に当センターを受診したことがある方）
- お薬手帳（薬の説明用紙）、飲んでいるお薬（現物）



9 検査のご案内

地域医療機関の診療業務の充実を図るため、高度医療機器の共同利用事業を行っています。

CT

検査項目：頭部・全身単純及び造影
受付時間：平日 10:00～16:00

MRI

検査項目：頭部・頸部・視神経・脊髄・前立腺等
受付時間：平日 10:00～16:00

RI

検査項目：脳血流SPECT、18FDG-PET
MIBG心筋シンチ、骨シンチ、Ga腫瘍シンチ、肺血流シンチなど
受付時間：平日 15:00～17:00

骨塩定量 測定

検査項目：腰椎、大腿骨、橈骨、全身
受付時間：平日 10:00～16:00

超音波

検査項目：【心臓超音波】心臓 【腹部超音波】腹部全般
【体表超音波】甲状腺・乳腺・その他体表
【血管超音波】頸動脈・四肢血管（動脈・静脈）
受付時間：平日 10:00～16:00
電話番号：03-3964-1141（代表）

ホルター 心電図

検査項目：ホルター心電図
受付時間：平日 10:00～16:00
電話番号：03-3964-1141（代表）
※ 取り外しを行うため、検査翌日の来院が必要です。

24時間 自由行動下 血圧測定

検査項目：24時間自由行動下血圧測定
受付時間：平日 10:00～16:00
電話番号：03-3964-1141（代表）
※ 取り外しを行うため、検査翌日の来院が必要です。

※C@RNA Connect利用の場合24時間予約入力できます。

予約方法

- お電話または検査予約システム（P.13）にてご希望の検査予約をお取りください。
- 患者さんへ紹介状（診療情報提供書）をお渡しください。（検査紹介である旨お書きください）

検査結果

- CT/MRIは、検査レポートを作成し、後日CDと共にご紹介元の医療機関にご郵送いたします。
- その他の検査は、ご紹介元の医療機関に返書をご郵送いたします。

電話受付時にお聞きすること

- ご紹介元の医療機関名・電話番号、患者さんのお名前・生年月日・電話番号（自宅等）
- 初診・再診であるか、検査部位（CT・MRIの場合は造影有無）

患者さんにお持ちいただきたいもの

- 健康保険証、後期高齢者医療被保険者証、難病等公費負担などの医療証（お持ちの方）
- 紹介状（診療情報提供書）
- 診察券（過去に当センターを受診されたことがある方）
- 造影剤使用の承諾書（造影CT/MRIの場合）



10 検査予約システムのご案内

診療科のご案内

11

当センターでは、オンラインで24時間ご利用可能な「**検査予約システム（C@RNA Connect）**」を導入しております。これにより、いつでも・どこからでも専用サイトを通じて当センターの検査予約等が可能となります。

新規にご登録をご希望される場合には、当センターホームページより登録用紙をダウンロードのうえ、医療連携係宛にお送りください。

■東京都健康長寿医療センターHP ⇒ 地域連携 ⇒ **C@RNA Connectのご紹介** ⇒ **新規登録のご案内**
<https://www.tmg Hig.jp/hospital/community/carna-connect/registration/>

主なサービス

- 放射線検査
CT検査 / MRI検査 / アイソトープ検査 / PET検査 / 骨密度測定
- 生理検査
超音波検査 / ホルター心電図 / 24時間自由行動下血圧測定
- 診察予約

ご利用の流れ



ご利用のメリット

- 希望する検査内容の選択、患者情報などの入力だけで検査予約をお取りいただけます。
- お電話でお待たせすることがありません。
- 曜日や時間に関係なく、ご利用いただけます。
- 予約入力した情報で診療情報提供書を作成することができます。
- 次回以降のご予約は、以前の基本情報を引き継いでご利用いただけます。
- 予約票や同意書のプリントができます。
- ご利用に必要な費用は一切かかりません。（インターネット利用料は除く）

内科系

総合内科／高齢診療科	15
膠原病・リウマチ科	17
腎臓内科・透析科	19
糖尿病・代謝・内分泌内科	21
循環器内科	23
呼吸器内科	25
消化器・内視鏡内科	27
脳神経内科／脳卒中科	29
血液内科	31
感染症内科	33
精神科	35
緩和ケア内科	37

外科系

外科	39
血管外科	41
心臓血管外科	43
脳神経外科／脳血管内治療科	45
呼吸器外科	47
整形・脊椎外科	49
皮膚科	51
泌尿器科	53
眼科	55
耳鼻咽喉科	57
歯科口腔外科	59

中央診療部門

麻酔科	61
リハビリテーション科	63
放射線治療科	65
病理診断科	67
臨床検査科	69
放射線診断科	71

研修医

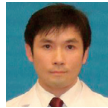
ジュニアレジデント	73
-----------	----

スタッフ紹介



総合内科部長
高齢診療科部長
岩切 理歌
(いわきり りか)

出身：日本医科大学（H1 卒）
専門：内科一般、血液疾患、老年医学
資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本血液学会血液専門医
日本老年病学会認定老年病専門医・指導医



総合内科医長（在宅医療連携病床担当）
高齢診療科医長
大川 庭熙
(おおかわ ていき)

出身：東京大学（H21 卒）
専門：循環器内科

【常勤医】

片岡 愛（かたおか あい） 中山 智博（なかやま ともひろ） 村野 陽子（むらの ようこ）

濱谷 広領（はまや ひろのぶ）

診療科の特徴

当科では加齢に伴う臓器の変化を考慮しながら、次のような診療に主に力を入れております。

- 症状の原因について必要な検査を行い、治療が必要な場合には専門の診療科にお繋ぎします。
- お困りの症状に内服中の薬が関与していないかどうか確認します（ポリファーマシー対策）。
- 心身の活力について評価し、健康寿命を延ばす取り組みを行います（フレイル予防対策）。
- 医療や介護について正確な情報を提供し、多職種で協働し療養環境を調整します。
- 介護度が高く頻回の外来受診が難しい場合には、予約受診日前に診療情報提供書を連携室にお送りいただけましたら、可能な範囲で受診日当日に複数の検査が出来るように調整致します。
- 患者様のご病状によっては、ご本人とご家族と別室にて対応させていただくこともあります。

主な対象疾患

- ① **発熱、痛みなど急性の症状**
当日に COVID-19 検査、血液検査、CT 検査など必要な画像検査を施行し、速やかに治療を開始いたします。
- ② **老年症候群**
めまい・ふらつき、食欲低下、体重減少、むくみ、疲労感、筋力低下、嚥下機能障害など、どこに原因があるのかわからないような症状に対し必要な検査を行います。
- ③ **多剤内服**
内服中の薬による有害事象の有無、薬の飲み残しがないかについて確認致します。
- ④ **フレイル予防対策**
フレイルとは加齢により心身の活力が低下することです。体重減少、倦怠感、活動量、握力、歩行速度、認知機能などを評価し、結果に応じて運動指導、栄養指導、社会参加への提案を行い、要介護状態に陥らない対策を立てます。
- ⑤ **在宅療養支援**
嚥下機能の低下に応じた栄養指導（調理法も含め）を行い、介護が必要になった場合には、在宅担当看護師や医療ソーシャルワーカーが地域のケアマネジャーと連絡を取りながら生活環境の調整を行います。
必要に応じて訪問診療医もご紹介します。
また、人生の最終段階をどう過ごすかについても、患者さんやご家族一人一人のお気持ちに寄り添いながら、助言や提案をさせていただきます。

得意とする分野

ポリファーマシー対策に力を入れています

当院通院中の患者様の約 2 割が 10 種類以上の薬剤を内服しています。薬は生命を維持していく上で大変重要ですが、6 種類以上になると有害事象が出やすくなり、多剤内服になるほど飲み間違いが増えると報告されています。必要な薬を安全かつ正確に内服出来るよう、薬の必要性について説明し指導を行っています。ポリファーマシー外来では特に時間をかけて診察しています。

スタッフ紹介



膠原病・リウマチ科部長

久保 かなえ
(くぼ かなえ)

出身：神戸大学 (H7 卒)
専門：関節炎疾患、膠原病・血管炎症候群および関連疾患、
それに伴う腎障害
資格：総合内科専門医
リウマチ専門医・指導医
腎臓専門医
難病指定医
日本リウマチ学会 評議員

【常勤医】

小林 聖未 (こばやし さとみ)

【非常勤医】

杉原 毅彦 (すぎはら たかひこ) 瀬理 祐 (せり ゆう)

坂内 穎 (ばんない えい) 青崎 真太郎 (あおざき しんたろう)

診療科の特徴

膠原病は関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、シェーグレン症候群などを総称した疾患群で、代表的な自己免疫疾患です。疾患によって特徴的な自己抗体を認め、全身の様々な臓器に疾患特有の臓器障害が起きます。リウマチ性疾患は関節、筋、腱などの骨格系の症状を伴う疾患群で、関節リウマチを代表格として、リウマチ性多発筋痛症、乾癬などの皮膚病に伴う関節炎を含む脊椎関節炎、痛風・偽痛風など多くの疾患を含みます。

当科では自己免疫疾患、リウマチ性疾患と言われる多くの疾患を対象とし、幅広い年齢に発症する様々な臓器障害に対して他の専門科と連携して診断治療を行っています。多くが慢性疾患ですので、長期的な治療を必要とします。当科では若い方から高齢の方までのライフスタイルを考えた診療を心掛けるとともに、各年齢特有の病態や合併症を考慮し、健康寿命を延ばすような治療方針を目標にしています。

このような症状があれば受診またはご紹介ください。

- 関節の痛みが続く、または関節の動きが悪い
- 筋痛が続く
- 発熱や倦怠感が続く
- 血液検査の炎症反応が続く原因がわからない
- 寒いときに手指が白くなる
- 顔や手足の皮疹が続く
- 口腔内潰瘍など粘膜症状を繰り返す
- 原因不明の胸の痛みや腹痛
- 上記の症状に加えてタンパク尿などの尿異常を認める
- 上記の症状に加えて白血球・血小板減少や貧血などの血球減少を認める
- 抗核抗体、抗 DNA 抗体、リウマトイド因子、抗 CCP 抗体などの自己抗体陽性
- 血栓症を繰り返す（特に若年から）
- 習慣性流産
- 急速進行性糸球体腎炎やネフローゼ症候群
- 膠原病や血管炎症候群に伴う腎障害
- 膠原病に伴う肺疾患
- 膠原病に伴う肺高血圧症疑い
- 膠原病に伴う末梢神経症状や中枢神経症状

予約診療を行っています。初診の際には事前の予約をお願いします。医療機関からの緊急受診のご相談は医療連携係を介してお受けいたします。

主な対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群（高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、悪性関節リウマチ、クリオグロブリン血管炎、IgA 血管炎など）、リウマチ性多発筋痛症、ベーチェット病、成人スティル病、脊椎関節炎（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎など）、IgG4 関連疾患、サルコイドーシス、再発性多発軟骨炎など

上記以外の疾患でも対応しているものがあります。

得意とする分野

- 高齢者の身体機能・認知機能を考慮し、最適化したリウマチ性疾患治療
- 関節エコーや MRI を用いた滑膜炎評価
- 膠原病や血管炎に伴う腎障害の診断治療

スタッフ紹介



腎臓内科・透析科部長

武井 卓
(たけい たかし)

出身：新潟大学 (H7 卒)
専門：腎臓内科疾患全般、腎炎、ネフローゼ症候群
資格：日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会認定専門医・指導医



腎臓内科・透析科部長

板橋 美津世
(いたばし みつよ)

出身：東京女子医科大学 (H8 卒)
専門：腎臓内科疾患全般、急速進行性糸球体腎炎
資格：日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本老年医学会専門医



腎臓内科・透析科医長

鈴木 訓之
(すずき のりゆき)

出身：杏林大学 (H15 卒)
専門：腎臓内科疾患全般、透析
資格：日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本老年医学会専門医・指導医
日本透析医学会 VA 血管内治



腎臓内科・透析科専門医長

岡 雅俊
(おか まさとし)

出身：山梨大学 (H20 卒)
専門：腎臓内科・血液透析・再生医療
資格：透析専門医

【常勤医】

山中 法子 (やまなか のりこ)

【シニアレジデント】

松野 志歩 (まつの しほ) **土屋 毅亮** (つちや たかあき) **太田 由衣** (おおた ゆい)

帯刀 健太 (たいとう けんた)

診療科の特徴

当科の特徴は、腎疾患の中でも慢性腎臓病、急性腎障害、難治性ネフローゼ症候群、難治性血管炎・膠原病に伴う腎障害に力を入れています。高齢者では腎臓の働きが正常の方でも若年成人に比べて約 70%まで低下していきとされています。そのため、ひとたび腎臓病を生じると末期腎不全へと進行し、透析治療を受ける危険性が出てきてしまいます。年々増え続ける腎臓病を早期発見し、個々の患者さんに合わせた適切な治療を行い、末期腎不全への進展抑制に努めます。当科の診療ポリシーは「患者さんを中心に考える」ということです。患者さんの家族を含め、皆が納得できる診療をめざしたいと思います。高齢者に限らず幅広い年齢層の患者さんをお受けいたしておりますのでご紹介ください。

主な対象疾患

- 慢性腎臓病 (CKD) / 蛋白尿、血尿 / 腎機能障害：慢性腎臓病とは何らかの腎障害が3か月以上持続する場合と定義されています。症状が出現することはほとんどなく、健康診断などで蛋白尿、血尿や腎機能異常により診断されます。
- 腎硬化症：高血圧、脂質異常症、動脈硬化によって生じます。慢性腎臓病の原因です。
- 糖尿病性腎症、糖尿病性腎臓病：糖尿病によって生じます。慢性腎臓病の最も多い原因です。
- 急性腎障害 (AKI)：急性腎障害とは、数時間～数日の間に急激に腎機能が低下する状態です。高齢者は体内の水分量が少なく、口渇感の低下、水分摂取量低下があり、急性腎障害を生じやすい状況にあります。また、鎮痛薬など多くの薬剤の内服により急性腎障害を生じる場合もあります。尿量減少、むくみ、だるさ、頭痛などの症状が現れることがあります。
- ネフローゼ症候群：ネフローゼ症候群とは、尿にタンパクがたくさん出てしまうために、血液中のタンパクが減り (低たんぱく血症)、その結果、むくみ (浮腫) が起こる疾患です。原因はさまざまです。
- 急速進行性腎炎症候群：腎臓の糸球体に高度の炎症が起きて、血尿や蛋白尿が出現し、数日～数週間の間に急速に腎機能が低下して腎不全になってしまう予後の悪い疾患です。高齢者に多いのが特徴です。
- 難治性血管炎 (ANCA 関連血管炎など) や膠原病に伴う腎障害：急速進行性腎炎症候群として生じることが多く、腎臓以外の血管にも炎症を起こすことがあり、肺炎や肺出血、皮膚の出血斑、神経炎を合併することがあり、早急な治療が必要となります。
- 多発性嚢胞腎：腎臓に多数の嚢胞ができる遺伝性腎疾患です。脳動脈瘤など全身の合併症を伴うこともあります。

得意とする分野

- 急性腎障害：早期に発見し対処しています。
- 慢性腎臓病：腎機能を正確に把握し、透析を回避するために何ができるかを患者さんと一緒に考え、治療しています。栄養相談も行っています。
- 透析療法：腎代替療法が必要になってしまった場合には、適切な治療法 (血液透析、在宅透析 (腹膜透析)) を相談し、できる限り生活の負担がないように選択します。血液透析を選択された場合は適切なバスキュラーアクセス (シャント、動脈表在化、長期留置カテーテル) を作成しています。血液透析法はオンライン HDF を実施しています。維持透析では運動療法などを取り入れフレイルの防止に努めています。シャント狭窄に対するシャント PTA も行っております。腎移植は当院では施行していないため、希望者には施行可能な近隣施設をご紹介します。
- 保存的腎臓療法：フレイルなどのため腎代替療法が困難な場合に行っています。意思決定のために十分な話し合いをしています。
- 難治性血管炎・急速進行性腎炎症候群：副作用に苦しむことのないようステロイド使用の工夫やリツキシマブ・アバコバン、免疫抑制薬により効率よく治療を行っています。
- 頻回再発型ネフローゼ症候群・難治性ネフローゼ症候群：リツキシマブ治療の実績があります。
- 膠原病に伴う腎障害：分子標的薬の使用および血漿交換や血液吸着など多くの治療法を行っています。

糖尿病・代謝・内分泌内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝・内分泌内科部長
救急診療部専門部長
田村 嘉章
(たむら よしあき)

出身：東京大学 (H8 卒)
専門：糖尿病、代謝、内分泌疾患、老年医学
資格：日本内科学会認定総合内科専門医・研修指導医
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医・評議員
日本内分泌学会認定内分泌代謝科 (内科) 専門医・指導医
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医・代議員
日本動脈硬化学会指導医・評議員
日本医師会認定産業医
東京大学医学部 (糖尿病・代謝内科) 非常勤講師



フレイル予防センター長
健康長寿医療研修センター長
荒木 厚
(あらき あつし)

出身：京都大学 (S58 卒)
専門：糖尿病、老年医学、病態栄養、とくに高齢者の糖尿病治療
資格：日本糖尿病学会専門医・指導医、功労評議員
日本老年医学会学会専門医・指導医、名誉会員
日本老年学会理事
日本病態栄養学会専門医・指導医
日本糖尿病合併症学会評議員
日本内科学会総合内科専門医・指導医
東京都糖尿病医療連携協議会委員



糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長
千葉 優子
(ちば ゆうこ)

出身：群馬大学 (H7 卒)
専門：糖尿病、内分泌代謝、老年医学
資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員
日本内分泌学会専門医・指導医
日本老年医学会専門医・指導医・代議員
日本臨床検査医学会臨床検査管理医



糖尿病・代謝・内分泌内科医長
豊島 堅志
(とよしま けんじ)

出身：東京医科歯科大学 (H16 卒)
専門：糖尿病、老年医学
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医・代議員
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医



糖尿病・代謝・内分泌内科専門医長
大庭 和人
(おおば かずひと)

出身：北里大学 (H18 卒)
専門：糖尿病、内分泌代謝、老年医学
資格：日本内科学会認定総合内科専門医
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医
日本老年医学会認定老年病専門医・代議員

【常勤医】

小寺 玲美 (こでら れみ) **舘鼻 彩** (たちばな あや)

【シニアレジデント】

長嶋 勇希 (ながしま ゆうき) **麓 隆太郎** (ふもと りゅうたろう)

診療科の特徴

当科は、高齢者の糖尿病治療では、伝統のある全国でも有数の施設の一つです。糖尿病、内分泌の教育認定施設で学会の専門医・指導医が複数在籍し、診療を行っています。また、脳神経内科・脳卒中科や循環器内科などの他科と連携して、合併症の評価や治療を行っています。当科では、「糖尿病を通して患者さんの全身を診る」とをモットーとしています。以下のような診療の特徴があります。

- 個性性を重視した治療：認知機能、身体機能、社会環境、低血糖の起こりやすさ、腎臓の働きなど、患者さんの様々な条件を評価して、治療の方法を考え、QOL 重視の医療を行っています。
- 柔軟性のある治療：2 型の糖尿病患者さんでインスリン治療が困難な場合、独自の方法でインスリンの離脱や注射回数の減少などを試んでいます。
- 最新の治療：1 日の皮下グルコースの変動を連続してみることができる持続グルコースモニタリング (CGM) が可能であり、間欠スキャン式 CGM (isCGM) とリアルタイム CGM (rtCGM) がいずれも行えます (ご自分で行う CGM の保険適用はインスリンを注射している方に限られます)、1 型糖尿病患者へのインスリンポンプの導入も可能です。さらに CGM とインスリンポンプの併用である SAP (Sensor Augmented Pump) 療法も扱っており、ポンプが基礎インスリンを自動調整するハイブリッドクローズドループ (HCL) 療法も昨年から行えるようになりました。
- チーム医療：糖尿病認定看護師や糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士がおり、医師とチームで食事、運動、服薬、インスリン注射、血糖測定、フットケアなどの指導をしています。
- 糖尿病の教育：入院糖尿病教室を多職種で行っています。また患者会 (育寿会) の活動も盛んであり、会員と連携しながら外来糖尿病教室等を行っています。
- 内分泌疾患も甲状腺をはじめ下垂体や副腎疾患など豊富に扱っております。
- 糖尿病患者さんのフレイル評価 (認知機能、身体機能など) も行えます。

主な対象疾患

- 糖尿病：2 型糖尿病、1 型糖尿病、その他の糖尿病
- 境界型耐糖能異常
- メタボリックシンドローム、肥満症
- 低血糖：インスリノーマ、腫瘍性低血糖、薬剤性低血糖、内分泌疾患による低血糖、ダンピング症候群など
- 脂質異常症：高コレステロール血症、高中性脂肪血症
- 甲状腺疾患：甲状腺機能低下症、橋本病、甲状腺機能亢進症、バセドウ病、甲状腺腫瘍
- 副腎疾患：アジソン病、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、副腎腫瘍
- 下垂体疾患：汎下垂体機能低下症、尿崩症、下垂体腫瘍
- 骨粗鬆症

得意とする分野

【糖尿病看護外来】

2022 年 5 月より糖尿病看護外来を開設しました。糖尿病認定看護師が外来に常駐し、医師の指導のもと、以下のような問題をもつ患者さんのお話を伺ったり、ケアや助言、療養指導を行います。

- ① 血糖コントロール不良の方
- ② 注射製剤を使用している方
- ③ CGM やインスリンポンプを使用している方
- ④ 腎機能が低下している方
- ⑤ 認知機能や ADL が低下していたり社会サポートが不足している方
- ⑥ 糖尿病足病変のあるまたはリスクが高い方 (従来のフットケア外来より継続)

糖尿病看護外来は連日対応可能となり、よりきめ細やかな療養指導を行うことが可能となりました。

(ご利用方法)

- ① 糖尿病・代謝・内分泌内科宛の紹介状を作成いただき、予約センターでご予約をお取りください。
- ② 医師の診察後、医師から認定看護師へコンサルトを行います。
- ③ 紹介いただいた先生のもとへお返しする場合は報告書を作成いたします。

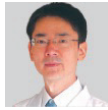
スタッフ紹介



副院長

原田 和昌
(はらだ かずまさ)

出身：東京大学 (S60 卒)
専門：心不全、冠動脈疾患、高血圧
資格：循環器専門医・日本循環器学会地方評議員
老年病専門医・日本老年医学会代議員
高血圧専門医・日本高血圧学会評議員
認定内科医
日本心臓病学会 FJCC



循環器内科専門部長
救急診療部長

坪光 雄介
(つばこう ゆうすけ)

出身：獨協医科大学 (H5 卒)
専門：冠動脈インターベンション、
閉塞性動脈硬化症に対する血管再生医療、心不全
資格：循環器専門医
日本心臓インターベンション治療学会専門医
内科学会認定内科医



循環器内科専門部長

碓井 伸一
(うすい しんいち)

出身：信州大学 (H7 卒)
専門：冠動脈インターベンション、
閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療
資格：日本循環器学会循環器専門医
日本心臓インターベンション治療学会専門医
日本内科学会認定内科医



循環器内科専門部長

石山 泰三
(いしやま たいそう)

出身：東京医科大学 (H8 卒)
専門：循環器内科学、不整脈
資格：日本内科学会認定総合内科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医
植込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療研修修了
身体障害者指定医 (心臓機能障害)



循環器内科医長

小松 俊輔
(こまつ しゅんすけ)

出身：東京医科大学 (H20 卒)
専門：循環器一般、虚血性心疾患、不整脈
資格：総合内科専門医
循環器専門医
産科医
禁煙サポート



循環器内科部長

石川 譲治
(いしかわ じょうじ)

出身：自治医科大学 (H6 卒)
専門：循環器内科、高血圧 (低血圧)、心臓超音波検査、心不全
資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本循環器学会循環器専門医
日本超音波医学会超音波専門医
日本高血圧学会専門医・指導医・評議員・特別正会員
日本老年医学会認定老年病専門医
身体障害者指定医 (心臓機能障害)



循環器内科担当部長

藤本 肇
(ふじもと はじめ)

出身：東京大学 (H8 卒)
専門：冠動脈インターベンション治療、心不全
資格：日本心臓インターベンション治療学会専門医
総合内科専門医
認定内科医
ICD・CRT 植え込み登録医



循環器内科医長

鳥羽 梓弓
(とば あゆみ)

出身：千葉大学 (H18 卒)
専門：高血圧、心不全
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本高血圧学会高血圧専門医・指導医
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医



循環器内科専門医長

二見 崇太郎
(ふたみ しゅうたろう)

出身：九州大学 (H23 卒)
専門：循環器内科一般、心臓超音波検査、弁膜症、心不全
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本超音波医学会超音波専門医
日本心エコー図学会 SHD 心エコー図認定医
日本周術期経食道心エコー認定委員会 (JB-POT) 認定医
日本老年医学会老年科専門医

【常勤医】

十菱 千尋 (じゅうびし ちひろ) **清水 瑠理** (しみず るり)

齊藤 義弘 (さいとう よしひろ) **両角 愛** (もちづみ あい)

吉村 沙織 (よしむら さおり)

診療科の特徴

内科の外来は平日すべて開設しております。原則予約制ですが、予約外で受診をご希望される際は、まずお電話でご連絡ください。当センターの循環器内科は東京都 CCU ネットワークおよび大動脈スーパーネットワークに加盟しております。夜間・休日も循環器内科当直医を置き、24 時間体制で救急患者の受け入れを行い、緊急カテーテル治療にも対応しております。状態が安定すれば近隣の病院・開業医の先生と連携を取りながら治療を継続いたします。対象 疾患は循環器疾患のそれぞれの分野において専門的知識・技術を有するスタッフを擁しております。特に弁膜症、不整脈に関しては専門外来も設けて診療を行っています。当センターは高齢の心不全で入院される患者さんが多いのが特徴です。高齢者は多臓器に合併症を有することが多く、認知機能障害、筋肉量低下、運動機能の低下が認められ、生活の質が低下してしまうことがあります。高齢患者さんに対して個々の状態に応じて全体的な観点から診療し、患者さんの生命を守り、疾患の発症や再発予防に加えて、生活の質も維持するように心がけています。

主な対象疾患

- 心不全：心臓の機能が低下して、血液を送り出すポンプの働きが十分でなくなる状態です。薬物治療、場合によってはデバイス治療（大動脈バルーンパンピング、インペラ、補助循環、両心室ペースティング）、手術なども検討します。当センターでは、心不全治療に対して、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、ソーシャルワーカーなどが連携しながら、総合的に対応いたします。
- 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）：心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化や攣縮によって狭窄・閉塞する病気で、薬物治療・カテーテル治療・外科的手術を行います。外科的な冠動脈バイパス術が必要と判断された場合には、心臓外科と協力しながら治療を行います。
- 不整脈（心房細動・心房粗動・上室性頻拍・心室頻拍などの頻脈性不整脈、完全房室ブロック・洞不全症候群などの徐脈性不整脈があります）：心臓内に電気の伝導路ができて頻脈になったり、電気の伝わりが悪くなって徐脈になったりして、動悸・息切れ・失神などの症状が現れます。原因となる電気伝導路を焼灼 アブレーションや、ペースメーカー植込み術などを行います。
- 心臓弁膜症（僧帽弁閉鎖不全・狭窄症、大動脈弁閉鎖不全・狭窄症など）：弁が緩んだり硬化することによって、血液が逆流したり通過障害をきたしたりする状態です。当センターは経カテーテル的大動脈弁置換術の施設認定を受けています。外科的弁膜症手術が必要であると判断された患者様は、心臓外科との協力で治療を行います。
- 心筋症（拡張型心筋症・肥大型心筋症・アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど）の診断治療も可能です。
- 深部静脈血栓・肺塞栓：下肢静脈に血栓が生じると、肺に塞栓を起こすことがあります。当院では肺塞栓の診断治療において一時的な大静脈フィルター挿入や体外循環を用いた治療も行うことが可能です。
- 高血圧：24 時間自由行動下血圧測定を行い、積極的に仮面高血圧や白衣高血圧の診断を行っています。また、高齢者に多いとされる起立性低血圧や食後低血圧、フレイル（虚弱）、筋肉減少症（サルコペニア）、認知機能なども評価し、総合的に血圧管理しています。

得意とする分野

- 心不全：非高齢の心不全患者に対しては、薬物治療だけでなく、場合によっては上記のデバイス治療や外科的な治療も行っています。当センター入院患者は高齢であり（65 歳以上が 83.3%、75 歳以上が 70.1%）、高齢心不全患者に対しては、利尿剤・心保護薬、強心薬などを用いた心不全の薬物治療に加えて、認知機能、フレイル、社会背景、栄養などを考慮しながら、多職種で総合的に心不全管理を行っています。2022 年度は心不全の診断治療に必要な心エコー図検査を 6,433 件行いました。
- 虚血性心疾患：2022 年度はカテーテル治療を 436 例施行しました。その中で経カテーテル的冠動脈形成術は 192 例でした。ロータブレーターも 10 件施行しました。
- 不整脈：2022 年度はカテーテルアブレーションを 39 例、ペースメーカー植込み術（交換を含む）を 83 例、両心室ペースティングを 3 例施行しました。
- 大動脈疾患：東京都の大動脈スーパーネットワークの支援施設であり、大動脈解離・大動脈瘤に対し、内科的治療を行うとともに、手術適応がある場合には心臓外科へ紹介し、迅速な対応を行っています。
- 高血圧 24 時間自由行動下血圧測定は年間 230 例でした。起立性低血圧や食後低血圧に対する診断治療も試みています。

スタッフ紹介



呼吸器内科部長（内科総括部長）

山本 寛
（やまもと ひろし）

出身：東京大学（H9 卒）
専門：呼吸器疾患全般、高齢者肺がん
資格：日本内科学会 総合内科専門医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医
日本老年医学会 老年科専門医・指導医、代議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
東京都身体障害者福祉法第 15 条指定医
（呼吸器機能障害）
東京大学医学部生理学教室非常勤講師



呼吸器内科専門部長

山田 浩和
（やまだ ひろかず）

出身：山梨医科大学（H4 卒）
専門：呼吸器疾患全般、アレルギー疾患、膠原病、びまん性肺疾患
資格：日本内科学会認定医
日本呼吸器学会専門医・指導医
日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医
日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本医師会認定産業医
インフェクションコントロールドクター
東京都身体障害者福祉法第 15 条指定医
（呼吸器機能障害）（肢体不自由）

【常勤医】

佐塚 まなみ（さづか まなみ） **野木森 智江美**（のぎもり ちえみ） **籠尾 南海夫**（かごお なみお）

【シニアレジデント】

井原 健人（いはら けんと）

診療科の特徴

呼吸器内科では、各種呼吸器疾患の包括的な診断と治療、およびケアを行っております。特に、高齢者肺がんについては、最新の診療ガイドラインに則りつつ、それぞれの患者さんに応じた手術、薬物療法（細胞障害性抗瘍薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）、放射線治療、支持療法を選択していることが、当院の最大の特徴です。具体的には、高齢者機能評価によって、患者さんそれぞれの多様なぜい弱性を把握し、これを患者さんや介護者の方と共有した上で、治療の意思決定支援を行っています。そして、生活の質を最大限維持しながら、がんと共生できるように支援しています。とくに、75 歳以上の高齢肺がん患者さんについては、C @ RNA から早期のご予約が可能ですのでご利用ください（肺がん以外の患者さんに関しましては、通常どおり、予約センターからのご予約をお願いいたします）。気管支喘息や COPD については、患者さんそれぞれの treatable traits に基づいた個別化治療を提案しています。特に、高齢者の生活機能を維持し、健康寿命を延伸するためには、薬物有害事象に配慮した薬剤選択や薬剤の減薬が鍵になるため、これを意識した介入を積極的に提案しており、特に、気管支喘息では生物学的製剤の投与も行っています。

主な対象疾患

原発性肺がん、悪性胸膜中皮腫、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患、気管支喘息、気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など、ほとんどすべての高齢者呼吸器疾患に対応しています。

なお、肺結核、非結核性抗酸菌症についても、その診断・治療を行っていますが、排菌のある開放性結核症例には対応できません。喀血症例についても、当院での対応は困難ですので、周辺医療機関の喀血センターなどへのご紹介を頂きますと幸いです。

得意とする分野

入院患者の約 6 割が原発性肺がん、ないしその疑いのある患者さんです。当院の患者さんは平均 80 歳弱です。高齢者機能評価の結果をもとに、患者さんそれぞれの多様なぜい弱性を見出し、「今の生活をできるだけ長く続けられる」対応方法を、患者さんとよく話し合った上で決めています。診断の主役となる気管支鏡検査（2019～2021 年度実績：計 295 件）に関しては、チャンネル径の太い処置用内視鏡から、細径、極細径までを取り揃え、様々な病変の診断に対応しています。仮想気管支鏡画像（図 1）を用いたナビゲーションやガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）を用いた末梢病変の正確な診断（図 2）、超音波気管支鏡下経気管支リンパ節穿刺法（EBUS-TBNA）によるリンパ節病変の診断（図 3）も得意としています。合併症をお持ちの方がほとんどですが、安心と安全には十分に配慮して検査を行っています。手術が可能と思われる患者さんについては、呼吸器外科と協力して、胸腔鏡を中心とした比較的侵襲度の低い手術をお勧めすることもあります。放射線治療や細胞障害性抗がん薬による治療はもちろん、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬による治療も、積極的に行っています。多くの患者さんは外来で化学療法を行い、平常の日常生活活動を続けながら治療を受けられています（2021 年度実績 294 件）。症状緩和のために必要な治療や環境整備には、緩和ケア内科と協働し、逐次、迅速に対応するようにしています。

図1

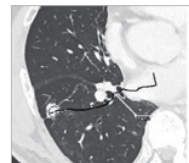


図2

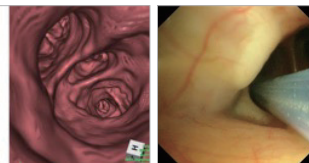
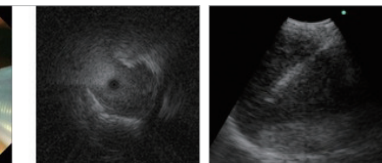


図3



スタッフ紹介



消化器・内視鏡内科部長

小野 敏嗣
(おの さとし)

【出身】
東京大学 (H15 卒)

【資格】
博士 (医学) 東京大学
日本内科学会 認定医・総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
関東支部評議員・本部学術評議員
日本肝臓学会 専門医・暫定指導医
日本胃癌学会・日本門脈圧亢進症学会
American society for gastrointestinal endoscopy 所属
難病指定医

【書籍】
【教科書では教えてくれない！
私の消化器内視鏡 Tips Vol.2 + レジェンド Tip (とっておきの"コ
ツ"を伝授します)】
小野敏嗣 編, 医学書院, 2021 年.
【診断力 UP! アルゴリズムで読み解く消化管内視鏡】
小野敏嗣ほか編, 南江堂, 2021 年.
【教科書では教えてくれない！
私の消化器内視鏡 Tips: とっておきの"コツ"を伝授します。】
小野敏嗣 編, 医学書院, 2018 年.



消化器・内視鏡内科顧問

保険指導専門部長
葦沢 龍人
(あしざわ たつと)

【出身】
東京医科大学 (S54 卒)

【専門】
消化器領域、消化器外科、総合診療科
肝臓内科 (特に B 型慢性肝炎、C 型慢性肝炎)

【資格】
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本肝臓学会専門医・指導医
日本病院総合診療医学会認定医
日本抗加齢医学会専門医
消化器がん外科治療認定医



消化器・内視鏡内科専門医長

保坂 祥介
(ほさか しょうすけ)

【出身】
愛知医科大学 (H20 卒)

【資格】
日本内科学会 認定医・総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本救急医学会 ICLS コースインストラクター
日本胆道学会・日本肝臓学会所属
難病指定医



消化器・内視鏡内科医長

三神 信太郎
(みかみ しんたろう)

【出身】
山梨大学 (H17 卒)

【資格】
博士 (医学) 東京大学
国際・行政修士 (専門職) 一橋大学
日本内科学会 認定医・総合内科専門医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本肝臓学会 専門医・暫定指導医



消化器・内視鏡内科専門医長

深川 一史
(ふかがわ かずし)

【出身】
佐賀大学 (H22 卒)

【資格】
博士 (医学) 東京大学
日本内科学会 認定医・総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医
日本肝臓学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医 関東支部評議員
難病指定医

【常勤医】

羽鳥 清華 (はとり せいか) **大隅 瞬** (おおすみ しゅん)

【シニアレジデント】

白倉 英知 (しらくら ひでのり) **正谷 一石** (まさたに かずし) **佐藤 優樹** (さとう ゆうき)

堀越 裕介 (ほりこし ゆうすけ)

診療科の特徴

消化器・内視鏡内科では、内視鏡治療、各種抗癌剤治療、薬物治療等、あらゆる消化器疾患に対応できるような体制を整えております。さらに、高齢者の多い当院の特徴に即して、高齢者の病態を考慮し、安全かつ負担のない治療が行えるよう工夫しています。

- 鎮静剤を使用し、苦痛のない上下部内視鏡検査を行っております。認知症があり、自宅での下剤内服等に不安のある方でも安心して検査を行って頂けるような、短期入院制度を取り入れております。
- 食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌に対して、手術と比較して低侵襲である、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を積極的に行います。
- 高齢者に多い、総胆管結石胆管炎や、胆膵悪性腫瘍に対して、内視鏡的逆行性膵胆管造影術 (ERCP) を行い、診断や治療を多数行っています。
- 膵癌を始め、悪性リンパ腫、胃粘膜下腫瘍、肝腫瘍、胆管癌や胆嚢癌、腫大リンパ節等を穿刺し、病理学的診断をつける、超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA) も豊富に行っております。
- 肝炎ウィルス治療や、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術 (RFA)、動脈塞栓術 (TAE) も可能です。

主な対象疾患

- 腫瘍性疾患：食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌、膵癌、膵嚢胞性腫瘍、胆管癌 (胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌)、肝細胞癌、神経内分泌癌など
- 消化管疾患：逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、直腸潰瘍、憩室炎、虚血性腸炎、憩室出血、消化管異物誤飲、腸閉塞、炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病)、好酸球性胃腸症など
- 胆膵疾患：総胆管結石、胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎など
- 肝疾患：肝腫瘍、ウィルス性肝炎、薬剤性肝炎、自己免疫性肝炎など

得意とする分野

- ESD は、食道・胃・十二指腸・大腸と幅広く行っており、例年 100 件前後を施行しています。
- EUS は膵臓のみならず、リンパ節、胃粘膜下腫瘍、肝腫瘍、胆嚢癌や胆管癌の穿刺も行い、高い診断率を得ております。さらに、膵炎後被包化壊死の穿刺ドレナージ術や、EUS- ランデブー法等インターベンショナル EUS も可能です。
- ERCP は高齢者の多い病院の特性上、総胆管結石に伴う胆管炎の緊急入院が非常に多く、例年 ERCP 総数は 200 件程度で推移しています。良性疾患のみならず、悪性胆道狭窄に対し、金属ステントの留置も多数行っています。
- 消化管の悪性狭窄を来した方にも、金属ステントを留置し、経口摂取が可能となる可能性があります。食道、胃、十二指腸、大腸の狭窄に対応可能です。当院では消化管ステントの経験数も非常に多い現状です。

スタッフ紹介



副院長（脳神経内科部長）

岩田 淳
(いわた あつし)

出身：東京大学（H5 卒）
専門：認知症疾患、パーキンソン病、脊髄小脳変性症
資格：総合内科専門医
日本内科学会認定医
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医



脳神経内科専門部長
(脳卒中 A 担当部長)

仁科 裕史
(にしな やすし)

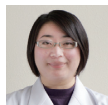
出身：福島県立医科大学（H3 卒）
専門：脳神経内科疾患全般、脳卒中、認知症
資格：日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
認知症学会専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医



脳神経内科医長

東原 真奈
(ひがしはら まな)

出身：信州大学（H13 卒）
専門：ALS・運動ニューロン疾患・神経筋疾患、電気診断（神経伝導検査、針筋電図、単線維筋電図、誘発電位など）
資格：日本内科学会認定内科医
日本神経学会専門医・指導医
日本臨床神経生理学会専門医・指導医



脳神経内科医長

井原 涼子
(いはら りょうこ)

出身：東京大学（H14 卒）
専門：認知症疾患、臨床研究全般
資格：総合内科専門医
日本内科学会認定医
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医

【常勤医】

波多野 敬子 (はたの けいこ) **平 賢一郎** (たいら けんいちろう) **栗原 正典** (くりはら まさのり)

【シニアレジデント】

近藤 壮一郎 (こんどう そういちろう) **小谷 理沙** (こたに りさ) **内田 奈緒子** (うちだ なおこ)

嶋崎 亮介 (しまざき りょうすけ) **小森 雄太** (こもり ゆうた) **山川 尚子** (やまかわ なおこ)

診療科の特徴

脳梗塞急性期診療からパーキンソン病を代表とする神経変性疾患、アルツハイマー病を代表とする認知症疾患、筋炎やギラン・バレー症候群を代表とする神経・筋疾患まで幅広く対応しています。

また、脳梗塞急性期診療（6床のStroke Care Unit(SCU)をもち、血管内治療も実践しています。）を脳神経外科と24時間体制で行っており、板橋区内で最多の実績があります。

超急性期、発症から3-4.5時間以内で適応が有る症例には、tPA治療を行っています。

脳血管障害の急性期からリハビリテーションまで多職スタッフとともに包括的診療を行っています。

地域連携として早期に回復期リハビリテーション病院へ転院できるよう、周辺施設と密に連絡をとり、早期転院を実現しています。

- パーキンソン病およびパーキンソン病関連疾患（多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症等）などの日常生活レベルの障害を来す疾患に対して、専門的特殊検査を外来や短期入院にて行い、診断と治療に力を入れています。
- 物忘れや認知症の専門的特殊検査を外来や短期入院にて行い、もの忘れを来す疾患のより正確な診断を心がけています。その結果、ご希望される方には治療を御紹介しています。
- 筋萎縮性側索硬化症の専門外来では、リハビリテーション医、栄養士、ソーシャルワーカーと連携した診療を行っています。
- 神経・筋疾患についても、電気生理検査や筋（神経）生検により精査し治療しています。筋電図検査はC@RNA Connectまたは医療連携係からの外部予約も受け付けています。
- 眼瞼痙攣に対してのボツリヌス治療を行っています。
- 単なる症状の疾患の治療のみでなく、機能障害や生活の場を視点に入れた包括的医療を目指しています。
- 頭部PET画像検査を含めた画像解析、脳脊髄液採取による詳細な神経化学分析、電気生理学的診断など高度の専門性に裏づけられた緻密な診断とそれに基づいた治療を行っています。
- 精神神経科と共同で物忘れ外来を併設しています。
- 神経学的疾患のみならず、他疾患に合併する神経障害についても診療しています。
- 神経疾患に対して胃ろう造設や胃ろうチューブ交換を行っています。
- 神経内科専門医取得に向けての研修指導体制も確立しています。
- 病気の最初から最後まで患者に寄り添い、剖検による最終診断で最後の貢献をし、得られたリソースで根治療法の開発を目指すことを理念としています。
- 地域へ最大限貢献するため、新規患者のための外来の待ち期間を最短にする努力をしています。安定した方は積極的に紹介元の先生に継続での診療を行って頂く病診連携を取り入れています。

主な対象疾患

- 脳血管障害・脳梗塞の急性期、脳卒中中の再発予防
- 脳炎・髄膜炎・脊髄炎の診断・治療
- 神経変性疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）
- もの忘れや認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知）
- 機能性疾患（てんかん、頭痛、めまいなど）
- 神経免疫疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症）
- 神経・筋疾患（ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、筋炎など）
- 内科的疾患に伴う神経症状、薬剤に起因する神経筋症状

得意とする分野

- 脳梗塞の急性期治療、内科的管理、再発防止
- パーキンソン病や関連疾患など神経変性疾患全般の診断と治療
- 認知症疾患の診断と治療
- 神経筋疾患の診断と治療

スタッフ紹介



血液内科部長

宮腰 重三郎

(みやこし しげさぶろう)

出身：聖マリアンナ医科大学（S59 卒）
専門：血液学、造血細胞移植
資格：日本内科学会認定内科医
日本血液学会血液専門医・指導医
日本老年医学会代議員
日本老年医学会認定 老年病専門医・指導医
日本造血・免疫細胞療法学会評議員
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医



血液内科専門部長

輸血・細胞療法科部長

小林 寿美子

(こばやし すみこ)

出身：日本大学（S61 卒）
専門：血液学、造血細胞移植、輸血学、HIV 感染症
資格：日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本血液学会認定専門医・指導医
日本輸血細胞療法学会認定医・評議員
日本移植学会認定医
日本造血・免疫細胞療法学会評議員・造血細胞移植認定医
日本エイズ学会認定認定医・指導医
日本輸血学会、造血細胞学会認定
細胞治療認定管理師
難病指定医・小児慢性疾患特定疾病指定医
日本骨髄移植推進財団調整医師 / 連絡責任医師 / 採取責任医師
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
米国血液学会会員



血液内科医長

小倉 和外

(おぐら かずと)

出身：防衛医科大学（H10 卒）
専門：血液学、造血細胞移植
資格：日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本血液学会血液専門医・指導医
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医
日本輸血・細胞治療学会認定医

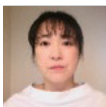


血液内科医長

齋藤 輔

(さいとう たすく)

出身：聖マリアンナ医科大学（H15 卒）
専門：血液学、造血細胞移植
資格：日本内科学会認定内科医
日本血液学会血液専門医
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医



造血細胞移植コーディネーター

赤川 順子

(あかがわ じゅんこ)

専門：血液疾患看護、造血細胞移植看護
資格：日本造血・免疫細胞療法学会認定造血細胞移植コーディネーター
日本造血・免疫細胞療法学会評議員
日本がん口腔支持療法学会理事

【常勤医】

橘 盛昭 (たちばな もりあき)

【シニアレジデント】

久能 美香 (くのう みか)

診療科の特徴

【血液内科】

- 2006 年 11 月より造血幹細胞移植を導入し、高齢者に対する血液悪性疾患に対する臍帯血移植の実績を上げております。直近では 2017 年 1 月 1 日より、日本骨髄バンクならびに日本造血細胞移植学会による認定施設（カテゴリー I）に認定され、全ての移植診療科、骨髄バンクドナー細胞採取（骨髄、末梢血、ドナーリンパ球）が可能となり積極的に取り組んでおります。高齢者が中心ではありますが、主治医制であり、65 歳未満を得意にしている医師もおります。
- 4 名全員が日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会認定医
- 全国から高齢者移植に関するセカンドオピニオン（4 名共）を行っております。

【輸血・細胞療法科】

- 担当 2 名が日本輸血細胞治療学会認定医師および細胞治療認定管理師
- 認定技師 2 名を含む技師 4 名体制
- 血縁ならびに非血縁者間同種造血幹細胞移植における血液型不一致移植時の各種細胞プロセッシング業務ならびに自家末梢血幹細胞採取
- 臍帯血移植の保存管理
- 間葉系幹細胞の調整在庫

主な対象疾患

- 急性白血病
- 慢性白血病
- 骨髄異形成症候群
- 悪性リンパ腫
- 多発性骨髄腫
- 再生不良性貧血
- 特発性血小板減少症
- 各種貧血
- 高齢者の急性白血病ならびに骨髄異形成症候群に対する造血幹細胞移植
- HIV 感染症

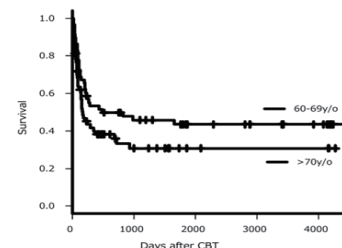
得意とする分野

当科では、65 歳以上の高齢者血液疾患に対する臍帯血移植を得意としている。
特に近年 70 歳代の移植が半数を占めるようになり、70 歳代の同種造血幹細胞移植症例数は日本で最も多い施設である。

同種造血幹細胞移植
2006年11月から2021年12月までの移植実績

自家移植	11例
血縁者間同種移植	26例
非血縁者間同種移植	15例
非血縁者間臍帯血移植	227例
合計	279例

骨髄性疾患に対する臍帯血移植
年代別生存率@2021年



スタッフ紹介



感染症内科専門部長

小金丸 博
(こがねまる ひろし)

出身：筑波大学（H13 卒）
専門：感染症一般
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本感染症学会感染症専門医、
ICD（インфекション・コントロール・ドクター）
身体障害者指定医（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害）

診療科の特徴

- 様々な合併症を持った高齢者の感染症・有熱疾患に対応しています。
- 院内感染症対策の担い手として、安全・安心な病院を目指します。
- 地域を含めた感染症対策の担い手を目指します。

主な対象疾患

- 呼吸器感染症、尿路感染症、腸炎、肝・胆道系感染症、皮膚軟部組織感染症
- 髄膜炎、感染性心内膜炎、インフルエンザ、結核
- 原因のはっきりしない発熱（不明熱）
- 急性の発熱疾患とともに、基礎疾患、社会的背景も含めたバランスのとれた医療を心がけています。
- 患者・家族の希望に沿った個別的な医療を目指します。

得意とする分野

- 一般細菌感染症の診断と治療
- 不明熱の診断と治療

スタッフ紹介



精神科部長

古田 光
(ふるた こう)

出身：東京医科歯科大学（H8 卒）
専門：老年精神医学
資格：精神保健指定医
日本精神神経学会認定専門医・指導医
日本認知症学会認定専門医・指導医
老年精神医学会認定専門医・指導医

【常勤医】

松井 仁美 (まつい ひとみ) **大森 佑貴** (おおもり ゆうき) **片岡 宗子** (かたおか むねこ)

清水 真央 (しみず まお)

【シニアレジデント】

土屋 大樹 (つちや だいき)

診療科の特徴

高齢者を対象とした老年精神科です。認知症を含む高齢者の精神障害の診断と治療を行っています。若年性認知症に対する多職種支援も行っています。身体科病棟入院患者に対しては年齢に関わらず総合病院の精神科としてコンサルテーションリエゾン精神医学を実践しています。

高齢者では、身体的な問題と精神的な問題とが密接に関わっていることが特徴です。当科では総合病院内の精神科としての特色を生かし、必要に応じて他の診療科とも連携し、総合的に評価・治療を行っています。

- 病棟は 30 床の閉鎖病棟があります。気分障害、精神病性障害、認知症の精査加療、および合併症医療を中心に行っています。入院医療は急性期に特化しており、入院期間は 1 か月間が目安です。急性期の治療終了後の療養については精神保健福祉士をはじめ、多職種でサポートします。
- 難治性のうつ状態や精神病性障害に対して、全身麻酔下での電気けいれん療法（ECT）を施行しています。
- 外来は完全予約制です。受診希望の方は、予約センターへお電話のうえご予約をお取りください。認知症に関するご相談は認知症専門相談室で受付けています。
- 他院精神科・心療内科等に通院中の方は診療情報提供書（紹介状）をお持ちください。また、現在の持病や飲み薬などが分かる資料を必ずご持参ください。可能であれば身体疾患のかかりつけ医療機関からの診療情報提供書をお持ちください。

主な対象疾患

- 老年期の精神疾患、特に老年期うつ病を中心とした気分障害や精神病性障害
- 認知症の行動・心理状態（BPSD）の精査・治療
- 認知症・もの忘れの精査、診断、治療介入、介護者支援、当事者支援（もの忘れ外来）

得意とする分野

- 認知症の行動・心理症状の精査加療
- 高齢者のうつ症状の原因検索と治療
- せん妄の診断と加療
- その他高齢者の精神症状の原因検索と治療
- 高齢者の電気けいれん療法（2021 年度実績：275 セッション 2022 年度実績：186 セッション）

スタッフ紹介



緩和ケア内科部長

齊藤 英一
(さいとう えいいち)

出身：佐賀医科大学（H1 卒）
専門：緩和ケア内科
資格：日本緩和医療学会専門医
日本プライマリリーケア学会認定医・指導医

【常勤医】

野木森 智江美 (のぎもり ちえみ)

緩和ケア外来／入院相談外来

緩和ケア外来では外来に定期的に通院していただきながら、痛みや呼吸困難などの苦痛を和らげたり、これからの過ごし方について相談したりしています。

緩和ケア外来の特長のひとつは、抗がん治療中の方もがん以外の方も受診できることです。痛みを和らげながら抗がん剤治療や放射線療法に臨みたい、抗がん剤の副作用を治療科のスタッフと相談しながら和らげ、抗がん剤治療のサポートをするのも緩和ケア外来の働きです。また、変化するご病状や体の状態に合わせて、これからの見通しや希望、過ごし方についても相談しています。

緩和ケア外来にはがん以外の方も受診できます。心不全や腎不全、慢性呼吸器疾患による呼吸困難、血管炎や動脈狭窄、神経疾患による痛みや痺れなども、治療科のスタッフと相談しながら和らげたいと思っています。

外来での緩和ケアにも2つの形があります。ひとつは入院相談外来で、もうひとつは緩和ケア外来です。どちらも予約制です。予約は在宅医療・福祉相談係で承っております。

緩和ケアチーム：一般病棟

一般病棟にご入院され治療をお受けになっている方の苦痛を、担当の医師や看護師さんたちと協力しながら和らげていくのが緩和ケアチームの働きです。緩和ケアチームは緩和ケアに専門的に携わっている医師や看護師、臨床心理士、精神科医、薬剤師、ソーシャルワーカーなどからなるチームで、ご入院されている病棟へチームでお伺いいたします。ご本人様やご家族様の希望や病棟からの依頼で訪床いたします。

緩和ケアチームはがんだけでなく、痛みだけでなく、さまざまな病のさまざまな苦痛を和らげるチームです。糖尿病や動脈閉塞・血管炎による痛みや痺れ、慢性呼吸器疾患や心不全による呼吸困難、人工呼吸器や透析の導入また差し控えの意思決定、病で先行きが見通せないことによる気持ちのつらさなどにも、ご依頼を頂きベッドサイドにお伺いいたします。抗がん治療をする立場から少し離れ、苦痛をできるだけ和らげて過ごすという立ち位置から、これからをどう過ごすか一緒に考えて行くのも緩和ケアチームの働きです。

外来での緩和ケアにも2つの形があります。ひとつは入院相談外来で、もうひとつは緩和ケア外来です。どちらも予約制です。予約は在宅医療・福祉相談係で承っております。

緩和ケア病棟

緩和ケア病棟は、治癒を目指した治療の継続が困難と診断、もしくは十分な病状説明後に、治癒を目的とした治療を拒否した悪性腫瘍もしくは後天性免疫不全症候群の患者様で、身体的および精神的苦痛があり、専門的な緩和ケアを受ける必要がある方のための入院施設です。

ここでは治癒を目指した治療を行うことはありませんが、病気の進行に伴う様々な苦痛に対して、それらを和らげる治療・ケアを積極的に行います。

苦痛となる症状を和らげることはとても大切なことですが、時に困難に直面することもあります。身体的な苦痛は、ある程度、適切なおくすりの投与や処置、ケアで和らげることができますが、患者様・ご家族が今までの療養、そして各々の人生の中で抱えてこられた大切な時間や思いがたくさん詰まった重いカバンをおろすことは、たやすいことではないと考えています。

私たち緩和ケア病棟スタッフは、お一人お一人に寄り添い、患者様・ご家族の皆様がこの重いカバンを安心しておろしていただけるような、心身ともにゆったりと穏やかな時間を過ごしていただける、心温まる医療を提供していきたいと考えております。

がんの診断と病状の説明をご本人が受けていることは必要ですが、例えば認知症などで説明を受けても記憶に留まらず、説明をご理解できない場合は必ずしも必要ではありません。

特に入院期間に制限は設けていませんが、入院後に苦痛が和らぎ心身の状態も安定してお過ごしになれている方については、ご自宅での療養や療養型の施設など次の療養の場についてご相談することもあります。

スタッフ紹介



外科部長（外科総括部長）

中里 徹矢
(なかざと てつや)

出身：杏林大学（H12 卒）
専門：消化器外科、肝胆膵外科、胆膵疾患に対する内視鏡治療
外科教育
資格：外科指導医・専門医
消化器外科指導医・専門医
肝胆膵外科高度技能専門医・評議員
消化器内視鏡専門医
日本胆道学会認定指導医
日本膵臓学会認定指導医
米国内視鏡外科学会（SAGES）FLS/FUSE 認定
消化器がん外科治療認定医



外科部長

金澤 伸郎
(かなざわ のぶお)

出身：筑波大学（H1 卒）
専門：消化器外科、一般外科
資格：外科指導医・専門医
消化器外科指導医・専門医
消化器病指導医・専門医
消化器内視鏡指導医・専門医
大腸肛門病専門医
がん治療認定医
消化器がん外科治療認定医

【常勤医】

新井 孝明 (あらい たかあき)

【シニアレジデント】

荒井 奈緒子 (あらい なおこ)

田中 佑治 (たなか ゆうじ)

江本 雛子 (えもと ひなこ)



外科医長
救急診療部医長

三井 秀雄
(みつい ひでお)

出身：杏林大学（H8 卒）
専門：消化器外科、一般外科
資格：外科専門医
消化器内視鏡専門医

《専門外来》（すべて予約センターで予約可能です）

【肝胆膵専門外来】金 【便潜血外来】月～木

【腹腔鏡手術外来】月、火 【ストーマ・スキンケア外来】原則として木曜日

診療科の特徴

消化器領域の悪性疾患、良性疾患に対して、最新のエビデンスを重視しながらも患者さまのニーズに合わせた治療法をご提案し手術治療を行っています。疾患の診断や治療法の選択にあたっては、消化器内科や循環器内科、麻酔科を始めとした各専門診療科と協力しながら、併存疾患の多い高齢者の状態を総合的に評価した上で治療方針を検討しています。特に高齢者における外科治療では、癌の根治性だけではなく手術後も患者さまの生活の質（QOL）を維持することが重要と考えています。疾患の進行度や患者さまの全身状態に合わせて、より低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行っています。高齢の患者さまが多い医療機関ではありますが、診療に際しての年齢制限はありません。すべての年齢層の患者さまが受診していただけます。また、当センター外科では救急医療にも力を入れています。24 時間／365 日、2 名の外科医による on call 体制で救急対応を行い、緊急手術などの急性期治療に対応しています。

- 消化器領域の悪性腫瘍、良性疾患を中心に主に外科手術治療を行っています。
- 治療に際して患者さまの希望や身体の状態を考慮した最適な治療法をご提案させていただきます。癌治療にあたっては、手術治療のみならず、術前後の化学療法、放射線治療などガイドラインに沿った集学的治療を基本としています。
- 疾患の進行状況や全身状態にあわせて、負担の少ない低侵襲な術式を積極的に行っています。
- 高難度な肝胆膵外科手術はすべて肝胆膵外科学会高度技能専門医が担当します。
- 高齢者には管理が難しいと先入観をもたれやすい人工肛門に対しては、常駐する皮膚・排泄ケア認定看護師がきめ細かなアドバイスや指導を行っています。
- 良性疾患では、高齢者に多い鼠経ヘルニア、直腸脱、肛門疾患など、不快感を取り除き QOL を高めることを目指しています。内痔核に対する硬化療法（注射での治療）も行っています。
- 検査前の準備が大変な大腸内視鏡検査は短期入院による検査も可能です。
- 予約センターで予約できない場合や緊急対応をご希望の場合は当センターの医療連携係や外科外来まで直接ご連絡ください。個別に早急に対応いたします。診療情報提供を持参するだけの直接受診は、患者様をお待たせすることにもなりかねません。宜しくお問い合わせください。

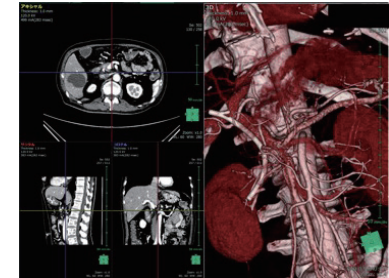
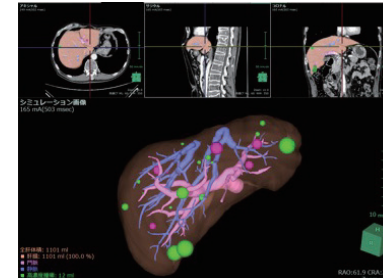
主な対象疾患

- 悪性疾患：消化器系の悪性腫瘍
(胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん、GIST)、乳がん、他
- 良性疾患：胆石症、ヘルニア、内痔核、直腸脱などの肛門部疾患、他
- 急性疾患：腸閉塞（癒着性、絞扼性）、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、消化管出血（吐血・下血）、消化管穿孔、他

得意とする分野

- 高難度な肝胆膵外科領域の手術はすべて肝胆膵外科学会高度技能専門医が担当しています。特に膵癌や胆道癌に対する化学療法（術前補助化学療法、術後補助化学療法）から手術、再発後の化学療法も当科で担当しシームレスな治療を行っています。膵臓手術、肝臓手術の際には精細な手術が可能となるように 3D 画像を用いた手術のシミュレーションを行っています。また、良性疾患では急性胆嚢炎、胆石症に対する治療を積極的に行っています。急性胆嚢炎は早期の腹腔鏡手術を目指していますが、高齢者では併存疾患が多く緊急手術が適当でない場合があります。経皮経肝胆嚢ドレナージや内視鏡的経乳頭の胆嚢ドレナージなどを併用し、最適なタイミングでの手術を行うようにしています。

Vincentによる手術シミュレーション



- 胃癌、大腸癌の手術は開腹手術と比較して低侵襲な腹腔鏡手術を基本としています。
- 鼠経ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠経部ヘルニア修復術（TAPP）も導入しています。
- 悪性疾患に対する治療では、各疾患の診療ガイドラインに沿った標準治療を基本としています。高齢者では既に多くの併存疾患を抱え、治療開始時点での全身状態も多様であるため、消化器内科や循環器内科、麻酔科などの各専門診療科と病状を十分に検討した上で適切な治療法を選択しています。単に高齢であることや認知症であるという理由だけで消極的な治療法は選択せず、身体的社会的な背景やご家族のご希望も考慮した治療法を検討します。癌の根治性に加えて QOL を維持することを目的とした患者さまの視点に立った治療法を考えていきます。時には手術治療以外の選択肢をご提示するなど、患者さまのニーズにあった柔軟な医療を提供します。
- 手術治療では侵襲が加わることでより一時的に身体に負担がかかることは避けられません。低侵襲で負担の少ない治療法を積極的に取り入れ、術後は早期離床を進めるなど、病棟看護師や薬剤師をはじめとするメディカル・スタッフとともに術後も QOL を維持できるようチームで取り組んでいきます。悪性腫瘍に対する化学療法も手術治療と同様に身体的に負担のかかる治療です。患者さまのおかれている状況を総合的に判断して適応を考えていきます。

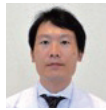
手術実績		2020年度		2021年度		2022年度	
		腹腔鏡	開腹	腹腔鏡	開腹	腹腔鏡	開腹
上部消化管	悪性	18	2	24	3	25	9
	良性	21		27		29	
下部消化管	悪性	69	24	96	50	81	47
	良性	46	32	53	41	72	70
肝胆膵							
肝臓	悪性	18		20		25	1
	良性	46	32	53	41	72	70
膵臓							
膵臓	悪性	18		20		25	1
	良性	46	32	53	41	72	70
ヘルニア							
ヘルニア	悪性	18		20		25	1
	良性	46	32	53	41	72	70
その他							
その他	悪性	18		20		25	1
	良性	46	32	53	41	72	70
合計		447		521		522	
(緊急手術)		(77)		(54)		(65)	

スタッフ紹介



心臓血管外科部長
血管外科部長
河田 光弘
(かわた みつひろ)

出身：浜松医科大学 (H9 卒)
専門：心臓血管外科一般、大動脈疾患、冠動脈バイパス、
心臓弁膜症、ステントグラフト治療、血管内治療
資格：外科認定医・専門医・指導医
心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医
胸部ステントグラフト指導医
(Gore TAG, Zenith TX2, Najuta, VALIANT Captivia)
腹部ステントグラフト指導医 (Gore Excluder)
腹部ステントグラフト実施医 (Zenith)
身体障害者福祉法第15条指定医
植込型補助人工心臓実施医
日本胸部外科学会評議員・関東甲信越地方会幹事
TAVR 指導医 (SAPIEN シリーズ)
TAVR 実施医 (CoreValve シリーズ)
浅大腿動脈ステントグラフト実施医
着型型自動除細動器 (WCD) 処方資格取得
ACLS プロバイダー



血管外科専門部長
松倉 満
(まつくら みつる)

出身：京都府立医科大学 (H17 卒)
専門：心臓・脳血管を除く血管疾患全般
特に下肢閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤
資格：日本外科学会 外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医
日本脈管学会 脈管指導医
日本循環器学会 循環器専門医
日本血管外科学会認定血管内治療医
下肢静脈瘤に対する血管内治療指導医
腹部ステントグラフト指導医
(Gore Excluder, ENDURANT, AFX, AORFIX)
腹部ステントグラフト実施医 (Zenith)
胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG, Zenith Alpha)
浅大腿動脈ステントグラフト実施医
身体障害者福祉法第15条指定医
難病指定医
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター



心臓血管外科医長
乾 明敏
(いぬい あきとし)

出身：東京大学 (H19 卒)
資格：日本外科学会 外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



血管外科専門医長
牧野 能久
(まきの よしひさ)

出身：東北大学 (H19 卒)
資格：心臓・脳血管を除く血管疾患全般
特に下肢閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤
資格：日本外科学会 外科専門医
日本脈管学会 脈管指導医
日本ステントグラフト実施基準管理委員会
腹部ステントグラフト指導医 (Gore Excluder, ENDURANT, AFX)
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による指導医



血管外科医員
村田 知洋
(むらた ともひろ)

出身：和歌山県立医科大学 (H22 卒)
資格：外科認定医・専門医
胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG)、
TAVR 実施医 (SAPIEN シリーズ)

診療科の特徴

血管外科では、心臓、胸部大動脈、頭蓋内以外すべての血管疾患およびリンパ管疾患を対象としています。
手術治療、運動療法、薬物治療まで幅広く対応しています。

年齢による制限は特に設けておりません。ご高齢であっても適応があり、手術によってその患者さんの生活の質が向上する、次の治療につながり、メリットが得られる場合は、ご本人、ご家族と十分に話し合った上で積極的に治療いたします。

低侵襲手術（体に負担の少ない、傷の小さい、血管内治療）にも積極的に取り組んでいます。

傷の大きな従来の血管外科手術、低侵襲手術を患者さんの全身状態を考慮して、最も適切な方法で対応いたします。

主な対象疾患

- 腹部大動脈瘤
- 末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、末梢動脈瘤など）
- 虚血性足部難治性潰瘍／壊死（糖尿病性足疾患も含む）
- 腹部内臓動脈瘤、腹部内臓動脈解離
- 下肢静脈瘤、静脈疾患
- 透析用内シャント造設・内シャント不全に対する血管拡張術・動脈表在化・透析長期留置カテーテル

得意とする分野

- 腹部大動脈瘤のステントグラフト内挿術：開腹人工血管置換術に加えて、開腹しないカテーテル治療であるステントグラフト内挿術も行っております。（図1）
- 末梢動脈疾患血管内治療：カテーテル治療で狭窄や閉塞している動脈を風船で拡張し、再度狭窄しない様にステントを留置したり、再狭窄を防ぐ薬剤が溶け出すステントを留置したり、風船で薬剤を塗布してステントは留置しない方法や、末梢動脈用ステントグラフトを留置したりを病変に合わせて治療します。従来の血管外科手術に組み合わせて行う方法もあります。（図2）
- 静脈瘤血管内焼灼術：レーザー／ラジオ波血管内焼灼術は、従来はストリッピング手術という逆流を起こしている大腿部分の大伏在静脈を抜去していたのに代わり、大腿部の大伏在静脈内膜面をレーザー／ラジオ波で焼灼して機能不全となった静脈を閉塞させて逆流が起こらなくする方法です。（図3）この治療の際には、TLA（大量局所浸潤）麻酔を用いて痛みを極力取るようにしております。

図1

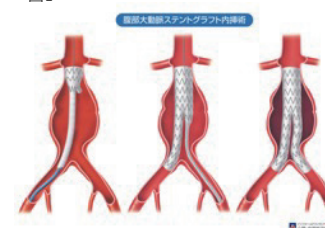


図2

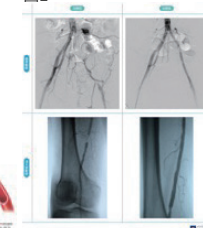


図3



スタッフ紹介



センター長
許 俊鋭
(きょ しゅんえい)

出身：東京大学 (S49 卒)
専門：心臓血管外科一般、冠動脈バイパス、心臓弁膜症、
補助人工心臓、心臓移植
資格：心臓血管外科専門医・修練指導者
循環器専門医、
植込み型補助人工心臓実施医
胸部外科指導医



心臓血管外科部長
血管外科部長
河田 光弘
(かわた みつひろ)

出身：浜松医科大学 (H9 卒)
専門：心臓血管外科一般、大動脈疾患、冠動脈バイパス、
心臓弁膜症、ステントグラフト治療、血管内治療
資格：外科認定医・専門医・指導医
心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医
胸部ステントグラフト指導医
(Gore TAG, Zenith TX2, Najuta, VALIANT Captivia)
腹部ステントグラフト指導医 (Gore Excluder)
腹部ステントグラフト実施医 (Zenith)
身体障害者福祉法第 15 条指定医
植込み型補助人工心臓実施医
日本胸外科学会評議員・関東甲信越地方会幹事
TAVR 指導医 (SAPIEN シリーズ)
TAVR 実施医 (CoreValve シリーズ)
浅大腿動脈ステントグラフト実施医
着型自動除細動器 (WCD) 処方資格取得
ACLS プロバイダー



心臓血管外科医長
乾 明敏
(いぬい あきとし)

出身：東京大学 (H 19 卒)
資格：日本外科学会 外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



心臓血管外科医員
村田 知洋
(むらた ともひろ)

出身：和歌山県立医科大学 (H22 卒)
資格：外科認定医・専門医
胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG)、
TAVR 実施医 (SAPIEN シリーズ)



心臓血管外科専門医長
眞野 暁子
(まの あきこ)

出身：京都府立医科大学 (H8 卒)
専門：循環器内科一般、心不全、補助人工心臓、心臓移植
資格：循環器専門医
認定内科専門医
ECFMG certificate
集中治療専門医
植込み型補助人工心臓管理医
看護師特定行為研修指導医

診療科の特徴

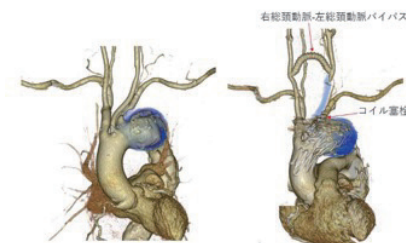
心臓血管外科の診療スタッフは常勤心臓血管外科医 3 名、重症心不全・集中治療担当医 1 名、非常勤医 6 名で、成人心臓血管疾患に対する手術治療を行っています。ハートチームとしては、心臓血管外科、循環器内科、麻酔科、リハビリ科、看護師、放射線技師、臨床工学技士、検査技師、輸血部、栄養科と各専門分野の力を合わせて重症大動脈弁狭窄症に対して TAVI(経カテーテル的大動脈弁治療) を行っています。当院の特徴として、高齢者のフレイルを評価し、心臓手術、大血管手術も積極的に行っております。どのようにしたら、手術を安全に乗り越えられ、歩いてご自宅に退院できるかを常に考えて、術前から呼吸練習、身体的リハビリ、栄養指導、可能な限り自己血貯血を行っています。術中は 最も安全で効果的な術式を選択し、自己血を使用することで他家血輸血を使用せず無輸血を目指し、術後は早期離床を心がけて、積極的リハビリを行い、ハートチームでカンファレンスしながら退院を目指してゆきます。急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性 A 型大動脈解離の緊急症例にも対応できる質の高い医療の提供に努めています。当院は東京都 CCU ネットワーク、急性大動脈スーパーネットワークに加盟して、救急患者さんも受け入れております。

主な対象疾患

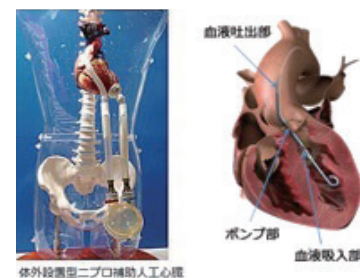
- 冠動脈疾患：狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、オフポンプ冠動脈バイパス術
- 心臓弁膜症：大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、感染性心内膜炎、大動脈弁置換術 (SAVR, TAVI)、僧帽弁形成術、三尖弁輪形成術
- 不整脈疾患：心臓弁膜症に合併した心房細動、メイズ手術、肺静脈隔離術、左心耳切除
- 大動脈疾患：胸部大動脈瘤、胸部大動脈瘤、急性大動脈解離 (A 型・B 型)、慢性大動脈解離、開胸人工血管置換術、ステントグラフト治療、オーブンステントグラフト治療
- 重症心不全：補助循環 (ECMO, IABP など)、補助人工心臓 (体外設置型・Impella 補助循環用ポンプカテーテルなど)
- 肺動脈疾患：肺塞栓症、肺高血圧、血栓除去、NO 吸入療法
- 成人先天性心疾患：心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、成人先天性心疾患に伴う心不全

得意とする分野

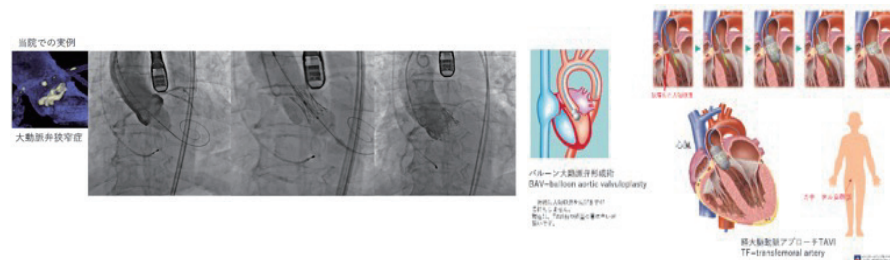
- ステントグラフト治療
胸部大動脈瘤をカテーテルによる血管内治療で手術します。



- 補助人工心臓
体外設置型や Impella 補助循環用ポンプカテーテルなどで弱った心臓を補助します。



- 経カテーテル的大動脈弁治療 TAVI = Transcatheter Aortic Implantation



スタッフ紹介



脳神経外科医長

小原 健太
(おはら けんた)

出身：東京医科歯科大学（H23卒）
専門：脳血管外科・脳腫瘍の外科・脳血管内治療
資格：日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本脳卒中の外科学会技術認定医
日本神経内視鏡学会技術認定医



脳神経外科専門部長

高梨 成彦
(たかなし しげひこ)

出身：帝京大学（H14卒）
専門：脳神経外科・脳血管内治療
資格：日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医

【常勤医】

田口 備教 (たぐち まさのり)

診療科の特徴

- 東京都急性期脳卒中搬送体制に参画し、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞に対する診療・手術を24時間体制で実施します。
- 急性期脳梗塞においてtPA静注療法、血栓回収療法を、脳神経内科・脳卒中科と協力して行っています。
- 脳動脈瘤、頸動脈狭窄症その他の脳血管障害に対する治療として脳血管外科手術、血管内治療の両者の観点から治療を提供しております。
- 東京都区西北部（二次医療圏）脳卒中医療連携に急性期医療機関として参加し、回復期や維持期の医療機関との切れ目のない連携に努力しています。
- 転倒をくりかえし物忘れもきたすなどフレイルに関連する、正常圧水頭症に対するシャント手術を積極的に行っており、他院からの紹介も含めて、都内でも有数の件数となっています。
- 当脳神経外科は、日本脳神経外科学会が行う入院症例登録事業JND(JapanNeurosurgicalDatabase)に参加しており、脳神経外科で施行した入院治療（手術のみならず、内科的治療や放射線治療、リハビリテーションなどのすべてを対象としますが、患者を特定する個人情報を含みません。）とその転帰について、登録を希望しないと申出があった方を除外して、学会に報告します。

主な対象疾患

- 急性期脳卒中（くも膜下出血・脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞）
- 頸動脈狭窄症、頭蓋内血管狭窄・閉塞症
- 脳・脊髄動静脈奇形
- 脳・脊髄硬膜動静脈瘻
- 良性脳腫瘍（髄膜腫・神経鞘腫・下垂体腺腫・聴神経鞘腫など）
- 悪性脳腫瘍（グリオーマ・悪性リンパ腫・転移性脳腫瘍など）
- 脊髄腫瘍
- 頭部外傷・慢性硬膜下血腫
- 症候性てんかん・けいれん発作
- 水頭症（特に、特発性正常圧水頭症）
- 三叉神経痛・顔面けいれん
- 脳神経外科疾患のセカンドオピニオン
- その他、小児を除く脳神経外科一般

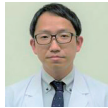
得意とする分野

- 脳血管外科、一般開頭術の件数を今後増やすべく新しい体制を構築しております。
- 脳動脈瘤、頭蓋内血管狭窄、頸部動脈狭窄症に代表される脳血管疾患については脳血管外科、脳血管内治療の両者の観点から手術適応を考慮しております。
- 高齢者医療の観点からも低侵襲手術を中心に医療提供を行います。
- 正常圧水頭症に対するシャント手術を積極的に行っております。

2022年度中央手術室、血管撮影室で行われた手術

術式件数		術式	
脳腫・脊髄腫瘍	4件	慢性硬膜下血腫	51件
脳動脈瘤・脳動静脈奇形（開頭術）	0件	外傷性疾患（血腫除去）	2件
脳出血・脳梗塞（開頭術）	4件	シャント・ドレナージ	35件
頸動脈狭窄（頸動脈内膜剥離術）	1件	脳血管バイパス術	0件
脳動脈瘤・血管奇形等（血管内手術）	19件	その他	1件
頸動脈狭窄（血管内治療）	13件	計	154件
その他の血管内治療（急性期再開通）	24件		

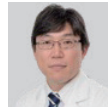
スタッフ紹介



呼吸器外科専門部長

土屋 武弘
(つちや たけひろ)

出身：筑波大学 (H18 卒)
専門：呼吸器外科一般
資格：外科専門医
呼吸器外科専門医
外科指導医
臨床研修指導医講習会修了
日本呼吸器外科学会 評議員
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



呼吸器外科部長

安樂 真樹
(あんらく まさき)

出身：鹿児島大学 (H8 卒)
専門：肺癌、転移性肺腫瘍、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、
胸壁腫瘍、気管腫瘍などの胸部腫瘍疾患全般、気胸、
血胸などの良性肺・胸膜疾患など
資格：外科専門医
呼吸器外科専門医
移植認定医
臨床研修指導医講習修了
日本胸部外科学会 評議員
日本呼吸器外科学会 評議員
Active Member, American Association for Thoracic Surgery
(AATS)
International Member, The Society for Thoracic Surgeons (STS)
鹿児島大学医学部 非常勤講師
東京大学医学部 非常勤講師

【常勤医】

登 祐哉 (のぼり ゆうや)

診療科の特徴

呼吸器外科は、3名の常勤医師が診断・治療にあたっております。胸部領域、特に肺、縦隔（じゅうかく）・胸膜・胸壁などの病気の診断・治療（手術など）を行っています。疾患としては肺腫瘍（肺がん・転移性肺腫瘍・良性肺腫瘍など）、縦隔（じゅうかく）腫瘍（胸腺腫・胸腺がんなど）、胸壁・胸膜腫瘍などの腫瘍性病変や気胸（ききょう）・膿胸（のうきょう）などといった良性疾患にも対応しています。肺がんは多くの場合、検診によるレントゲンの異常で指摘されます。その後、速やかに総合病院へ紹介となり、精密検査を行うこととなります。当院でも積極的に受け付けています。

検査方法として、胸部CT、MRI、PET-CT、気管支鏡が一般的であり、当院で行うことができます。治療内容に関しては、呼吸器内科・放射線治療科・病理診断科と連携し、患者さん一人一人に合った医療を検討していきます。【外来診察日】

	月	火	水	木	金
午前					
午後	初診・再診		初診・再診		初診・再診

※ 初診予約は比較の取りやすくなっております。

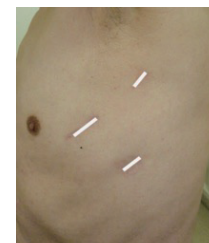
主な対象疾患

- 各診療科と連携して積極的に低侵襲な外科的治療（診断・治療）を行っています。
- 悪性腫瘍：原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など
- 良性疾患：気胸（自然気胸・続発性気胸）、膿胸（急性・慢性）、感染性疾患（非定型抗酸菌症・アスペルギルスなど）、原因不明なリンパ節腫大、胸膜肥厚など
- 胸部外傷：転倒などによる外傷性血胸もしくは外傷性気胸

得意とする分野

- 手術日：毎週 火曜日、第2・4週 金曜日
当院では、基本的に「内視鏡手術：胸腔鏡（きょうくうきょう）手術」を行っており、疾患の進行具合に合わせて適宜「開胸（かいきょう）手術」を行っています。

内視鏡手術：創部は1cm前後を2-3個、3-5cm前後を1個、計3-4個の創部で行います。
原発性肺がんの標準術式である肺葉切除・区域切除は計4個の創部、他手術は3個の創部で行っています。
開胸手術：10-15cm前後の創部で手術を行います。肋骨や筋肉は適宜切除・温存します。
他の病院と比較して、当院は比較的に高齢の患者さんが多く、その特徴として手術をされる多くの方に「心臓の病気」や「腎臓の病気」、「糖尿病」など様々な病気を合併していることが挙げられます。当院では病院全体が高齢者の治療に特化しており、そうした病院ならではの特徴を生かし、他科と連携し手術前後の体調管理を行います。
また、肺がんのみでなく、10～20歳代の若年者の気胸などにも適宜対応しております。ご年齢に関係なく疑問に思うこと、お聞きになりたいこと、気になることがある際、お気軽にご相談ください。



胸腔鏡手術創部 3 個



胸腔鏡手術 肺葉切除
区域切除創部 4 個



胸腔鏡手術の様子
テレビモニターを見ながら行う

スタッフ紹介



副院長

時村 文秋
(ときむら ふみあき)

出身：東京大学 (S61 卒)
専門：整形外科一般、手外科、特に末梢神経外科
資格：日本整形外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本骨粗鬆症学会認定医



整形・脊椎外科部長

宮崎 剛
(みやざき つよし)

出身：東京大学 (H5 卒)
専門：整形外科一般、関節外科
資格：日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会認定専門医・評議員
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本骨粗鬆症学会認定医
医学博士
Yale 大学医学部留学 (2000～2002)
東京大学医学部整形外科非常勤講師



整形・脊椎外科専門部長

早川 謙太郎
(はやかわ けんたろう)

出身：東京大学 (H14 卒)
専門：脊椎外科全般
資格：日本整形外科学会専門医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄科専門医・指導医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
医学博士



整形・脊椎外科医長

濱路 博
(はまじ ひろし)

出身：東京大学 (H7 卒)
専門：関節外科
資格：日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本骨粗鬆症学会認定医
日本人工関節学会認定医

【常勤医】

金子 雅子 (かねこ まさこ) 日本整形外科学会認定整形外科専門医、医学博士、日本骨粗鬆症学会認定医

金子 泰三 (かねこ たいぞう) 日本整形外科専門医、日本人工関節学会認定医、医学博士

人工股関節と手術の進歩！【金子 泰三】患者さんの気持ちに寄り添い、最適な治療方法や手術のタイミングなどを提案いたします。
(kansetsu-ita.com へ) (外部リンク) / <https://www.kansetsu-ita.com/doctor/doc465.php>

河田 学 (かわた まなぶ) 日本整形外科学会認定整形外科専門医、医学博士

松平 恭子 (まつだいら きょうこ)

【シニアレジデント】

斉藤 有輝 (さいとう ゆうき)

診療科の特徴

加齢に伴う関節疾患、外傷、脊椎疾患、絞扼性神経障害などを主に扱っています。

人工膝関節置換術、人工股関節置換術、頸椎椎弓形成術、腰椎椎弓切除術、インストゥルメント使用脊椎固定術、手根管開放術、大腿骨頸部骨折に対する骨接合術、人工骨頭置換術などを行っています。

月・火・木・金の初診外来とは別に、毎週月曜、木曜、金曜午後に人工関節初診外来・股関節外来を開いています。

末梢神経疾患を中心とした手外科疾患に対しては、火曜午後に時村の初診外来があります。

火曜・金曜午後には脊椎外科の初診外来を開いています。

主な対象疾患

関節疾患：変形性膝関節症、変形性股関節症

脊椎疾患：腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、脊椎圧迫骨折後偽関節

外傷：大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折、橈骨遠位端骨折、膝蓋骨骨折、肘頭骨折、上腕骨顆上骨折

手外科疾患：絞扼性神経障害（手根管症候群、肘部管症候群）、デュプイトレン拘縮

得意とする分野

以下、2022 年度における手術件数

- 人工膝関節全置換術：79 件
- 人工股関節全置換術：73 件
- 大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術：37 件
- 大腿骨近位部骨折に対する骨接合術：30 件
- 頸椎手術：28 件
- 胸椎手術：4 件
- 腰椎手術：82 件
- 経皮的椎体形成術：9 件
- 手根管開放術：16 件

スタッフ紹介



皮膚科部長

種井 良二
(たねい りょうじ)

出身：北里大学（S62卒）
専門：老年皮膚学
アレルギー性皮膚疾患（高齢者のアトピー性皮膚炎など）
資格：皮膚科専門医

【常勤医】

宮澤 理恵子 (みやざわ りえこ)

診療科の特徴

当センター皮膚科は、関連する診療科との連携により皮膚疾患の向こう側にある老年疾患・全身疾患に対する診断・治療も高いレベルで行えるため、高齢者の皮膚病診療に最も大切な「皮膚と全身をトータルに診る医療」を実践することができています。

また、当センターは病理部門が充実しているため、蛍光抗体法を始め、皮膚科診断に重要な特殊染色などが迅速に施行可能です。さらには高齢者の皮膚疾患に対応した看護体制も充実しており、福祉との連携もスムーズです。

- 高齢者の皮膚疾患全般について対応します。
- 高齢者の QOL（Quality Of Life：生活の質）を考慮した皮膚病の診療と治療を実施しています。
- 一般皮膚科、老年皮膚科、皮膚外科などの診療を幅広く行っています。
- スキントラブルやアンチエイジングなどのスキンケア指導も行います。
- 健康長寿を目的として高齢者以外のすべての年齢層の皮膚疾患についても診療いたします。

主な対象疾患

- 一般的皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、虫刺され、熱傷、水虫、疥癬、爪疾患）の診療。
- かゆみ疾患（皮脂欠乏性湿疹、皮膚掻痒症、アトピー性皮膚炎、紅皮症、痒疹、疥癬等）の精査や治療。
- 蕁麻疹やアレルギー、薬疹・中毒疹の原因検索と加療。
- イボやシミなどの老年性皮膚変化や良性・悪性皮膚腫瘍の診断と治療。
- 内臓疾患と関係する皮膚疾患（デルマドロームなど）の精査と加療。
- 口腔・外陰部粘膜疾患の診断と治療。
- 膠原病関連疾患（皮膚筋炎、強皮症、血管炎など）の皮膚症状の診断と治療。
- 高齢者に生じる脱毛症の診断・治療、生活指導。
- 重症の皮膚感染症（带状疱疹や丹毒・蜂窩織炎など）の入院点滴治療。
- 水泡性類天疱瘡（全身に水泡ができる自己免疫疾患）の入院治療。
- 下肢などに発生する皮膚潰瘍や血行障害性皮膚変化の精査と入院治療。
- かかりつけ医が対応に難渋する、褥瘡のデブリドマンや入院管理の要請への対応。
- 乾癬やアトピー性皮膚炎の生物学的製剤治療も承認病院として実施可能です。
- 手術適応症例では各種の手術を行っています。癌前駆症や皮膚癌の症例も非常に多く、経験豊富なので、症例に応じた QOL を考慮した治療方針の決定が可能です。（例えば抗癌剤や免疫賦活薬あるいは放射線治療法などの“切らない治療法”の選択、より高度な専門病院への紹介など）

得意とする分野

高齢者の痒み疾患

- 当院の臨床実績・臨床研究の成果をまとめて、種井部長は本邦初のアトピー性皮膚炎の英文教本「Evolution of atopic dermatitis in the 21st century.」（2017 年）において“Clinical manifestations; Senile atopic dermatitis”のパートを分担執筆しました。
- その他の痒み疾患についても当院の症例での診療実績を解析して多くの総説を報告しています。

スタッフ紹介



泌尿器科部長

粕谷 豊
(かすや ゆたか)

出身：愛媛大学（H2 卒）
専門：尿路悪性腫瘍、尿路結石症、尿路感染症
資格：日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構暫定教育医



泌尿器科専門医長

永田 卓士
(ながた たかし)

出身：熊本大学（H15 卒）
専門：排尿機能
資格：日本泌尿器科学会専門医・指導医



泌尿器科専門医長

津坂 恭央
(つさか やすお)

出身：浜松医科大学（H18 卒）
資格：日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
日本透析医学会透析専門医

【常勤医】

村田 弘明 (むらた ひろあき)

診療科の特徴

泌尿器科では特に高齢者の泌尿器に関する問題全般に対応いたします。

最近では副作用の少ない、より効果の高い排尿改善薬物を積極的に取り入れ、保存的治療に重点を置いた治療を行っていますが、手術適応患者に対しては、機能温存を念頭に置いて極力負担の少ない内視鏡手術で対応し、高齢者の QOL を損なわないようにしています。

- 当センター泌尿器科の診療スタッフは 4 名で診療を行っています。
- 尿力学検査装置、超音波検査装置を併用して総合的に排尿機能検査を行い、詳細な分析のもとに診断・治療を行い、いわゆるエビデンスに基づいた医療に貢献しています。
- 排尿に関して色々な悩みがあっても病院にかかりにくい人たちのために気軽に排尿の悩みを相談できるように「さわやか排尿外来」を開設しています。
- 尿路結石の治療は、高性能の尿管鏡・膀胱鏡下でレーザー、リソクラストなどのデバイスを使い確実に碎石することを目標にしています。
- 膀胱癌の治療では光力学診断（Photodynamic diagnosis：PDD）による経尿道的膀胱腫瘍切除術を行っており、確実に腫瘍切除することを目標にしています。
- 前立腺癌の診断のために前立腺生検を行っていますが、超音波の画像と MRI 画像を同時に連動させることのできるデジタル超音波診断装置「HIVISION Ascendus」を導入しており、前立腺癌の確実な診断を目標にしています。

主な対象疾患

- 高齢者の排尿障害：尿失禁、神経因性膀胱、前立腺肥大症、間質性膀胱炎など
- 尿路悪性腫瘍：腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌など
- 尿路結石症：内視鏡によるレーザー碎石術
- 尿路感染症：色々な原因に伴う複雑性尿路感染
- 尿路管理：尿道留置カテーテル、膀胱留置カテーテル、腎盂留置カテーテル、尿管ステントの留置及び交換

得意とする分野

【さわやか排尿外来】

頻尿、失禁、パッドやおむつの相談などを承ります。

泌尿器科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師が皆さまの排尿問題解決をお手伝いします。

日時：毎週火曜日 午後 13 時より

場所：1 階 13 番ブロック泌尿器科診察室

予約：予約制のため、予約センターにてご予約をお取りください。

スタッフ紹介



眼科部長

善本 三和子
(よしもと みわこ)

出身：筑波大学 (H1 卒)
専門：糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜血管閉塞疾患、白内障
資格：日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
視覚障害者用補装具適合判定医師研修修了
PDT 認定医
水晶体囊拡張リング (CTR) 講習会受講修了
A 型ボツリス毒素製剤ボトックス講習・実技セミナー修了



常勤顧問

沼賀 二郎
(ぬまが じろう)

出身：帝京大学 (S59 卒)
専門：眼科一般、ぶどう膜炎、眼炎症、免疫遺伝学
資格：日本眼科学会眼科専門医
視覚障害指定医師



眼科医長

池上 靖子
(いけがみ やすこ)

出身：奈良県立医科大学 (S61 卒)
専門：眼科一般、糖尿病網膜症、黄斑症
資格：日本眼科学会眼科専門医
眼科光線力学療法 (PDT) 認定医
身体障害者福祉法指定医
身体障害者用補装具適合判定医
難病指定医



眼科医長

大島 博美
(おおしま ひろみ)

出身：群馬大学 (H16 卒)
専門：眼科一般、白内障、緑内障
資格：日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医
視覚障害者用補装具適合判定医師研修修了
A 型ボツリス毒素製剤ボトックス講習・実技セミナー修了



眼科専門医長

山本 裕樹
(やまもと ひろき)

出身：三重大学 (H19 卒)
専門：白内障 (多焦点、縫着、強膜内固定含む)、網膜硝子体疾患
資格：日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医
視覚障害者用補装具適合判定医
水晶体囊拡張リング (CTR) 講習会受講医師

【常勤医】

高尾 博子 (たかお ひろこ)

【シニアレジデント】

福尾 美和子 (ふくお みわこ) **岡野 夏海** (おかの なつみ) **一迫 星来** (いちのはさま せら)

竹中 美帆 (たけなか みほ)

診療科の特徴

- 白内障手術は、基本的に小切開白内障 (超音波乳化吸引術) 手術を施行しており、患者様のニーズに合わせて日帰り手術、1 泊 2 日程度の入院手術を行っています。眼内レンズは、患者様の目の状態やご希望を考慮し、単焦点、単焦点 (乱視矯正用)、多焦点 (選定療養、2 焦点 / 3 焦点 / 焦点深度拡張型等、乱視矯正用あり) などの最先端のものの中から選択し、計測には術後屈折精度の向上のために、光学式眼軸長測定装置 ARGOS (santec 社製) を用いています。90 歳以上の超高齢者、様々な全身疾患を有する方、認知症のある方にも、QOL(Quality of life)、QOV(Quality of vision) を考え、手術が必要な場合には積極的に治療しています。また難症例や眼内レンズ偏位例にも対応でき、強膜内固定術なども行っています。
- 網膜剥離、黄斑円孔、硝子体出血、網膜前膜には積極的に小切開硝子体手術 (MIVS: Microincision vitreous surgery/25G) を行っています。
- 緑内障については、的確に診断し個別にきめ細やかな治療を行っており、緑内障手術は、積極的に低侵襲緑内障手術 (MIGS: Microinvasive glaucoma surgery) を行っています。(金曜午後：緑内障専門外来) また、自動視野計は、ハンフリー自動視野計 HFA III 850 を用いています。
- 加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症の診断、薬物治療を積極的に行っています。2022 年には広角眼底撮影装置 (Nidek 社 Mirante) を導入し、患者様の苦痛を軽減した、より質の高い検査を心がけております。眼底疾患に対しては、蛍光眼底造影 (FA および IA: Mirante) や光干渉断層計 (OCT: Nidek 社 RS3000 Advance) 光干渉断層層血管撮影 (OCT-Angiography: Carl Zeiss 社 CIRRUS HD-OCT 5000) を随時行い、レーザー治療、ステロイドテノン囊下注射、抗 VEGF 薬硝子体内注射などを行っています。
- ぶどう膜炎は、その診断に苦慮することが多い疾患ですが、高齢者のぶどう膜炎の診断、治療を行っております。
- 高齢者全ての疾患で病診連携に力を入れています。

主な対象疾患

- 白内障
- 眼底疾患 (加齢黄斑変性、網膜剥離、糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症、硝子体出血、網膜前膜など)
- 眼瞼下垂や眼瞼内反などの外眼疾患
- 緑内障、ぶどう膜炎

得意とする分野

2022 年度中央手術室施行

手術内訳	件数
白内障関連疾患	1,563 件
硝子体関連	74 件
緑内障関連	57 件
外眼部関連	62 件
硝子体注射	430 件

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科医長

鈴木 康弘
(すずき やすひろ)

出身：関西医科大学（H10 卒）
資格：アレルギー専門医
耳鼻咽喉科専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医
めまい相談医
補聴器相談医
補聴器適合判定医
東京都難病指定医
身体障害者福祉法第 15 条指定医
(聴覚、平衡機能、音声・言語機能及びそしゃく機能障害)
東京医科歯科大学耳鼻咽喉科 臨床教授

【常勤医】

渡邊 浩基 (わたなべ ひろき) **家坂 辰弥** (いえさか たつや)

診療科の特徴

耳鼻咽喉科では耳・鼻・口腔・咽喉頭・頸部領域の疾患の診療を行っています。本領域は、比較的若年層を中心とした疾患が多い一方、嚥下障害や老人性難聴、悪性腫瘍などの高齢者に多く認められる疾患もあります。

しかし、高齢者の場合は、様々な身体合併症により治療方針の決定に難渋することが少なくありません。当科は、日本でも数少ない高齢者専門の耳鼻咽喉科としての豊富な経験を元に、「高齢だから」という理由でひとくくりせず、患者様お一人お一人と全人的に向き合い、高齢者のＱＯＬ（生活の質）向上を目的とした診療に努めております。

鼻副鼻腔専門外来、耳手術専門外来を開設し、必要な症例には短期入院による手術加療を積極的に行っております。（専門外来への直接の紹介はできませんので、まずは午前の一般外来にご紹介いただけますと幸いです。）

国が重要政策として掲げているスギ花粉症ですが、その舌下免疫療法、さらに生物学的製剤による治療も行っております。

主な対象疾患

- 耳：加齢性難聴・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎・突発性難聴・顔面神経麻痺
- 鼻：慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・睡眠時無呼吸症候群・鼻副鼻腔良性腫瘍・鼻中隔彎曲症嗅覚障害
- のど：声帯ポリープ・ポリープ様声帯・反回神経麻痺・嚥下障害・慢性扁桃炎・病巣感染症・扁桃周囲膿瘍
- 頭頸部腫瘍：甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍・頸部良性腫瘍

得意とする分野

- 慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎に対する外科的治療を積極的に行っています。高齢者の方でも外科治療により、聴力改善や耳漏の停止、鼻づまりや鼻汁・後鼻漏といった症状の改善が可能で、ＱＯＬを向上することが出来ます。
- リハビリテーション科、神経内科・脳卒中科、歯科口腔外科、言語療法士等とのチームアプローチにより総合的な嚥下障害診療を行い、経口摂取の維持に努めています。適応のある患者様に対しては嚥下改善手術や誤嚥防止手術などの外科治療にも積極的に取り組んでおります。
- 毎週月・水・木・金の午後に補聴器外来を開設し、補聴器適合判定医と補聴器相談医が適切な補聴器装用の指導を行っています。
- 頭頸部悪性腫瘍に対しては、狭帯域光観察（NB I（Narrow Band Imaging））が可能な耳鼻咽喉ビデオスコープを導入し、頭頸部領域の早期癌病変の検出に成果を挙げています。
- 呼吸器内科と連携し、気管支喘息やアレルギー性鼻炎等のアレルギー関連疾患の総合的な治療が行える体制作りを目指しており、生物学的製剤の導入も積極的に行っております。
- 睡眠時無呼吸症候群の方に対する、鼻咽喉頭領域の形態評価を行い、適切な治療方法の提案を行っております。
- 耳疾患、鼻疾患に対する短期入院手術（1泊2日～3泊4日）を積極的に行っております。

スタッフ紹介



歯科口腔外科部長

平野 浩彦
(ひらの ひろひこ)

出身：日本大学松戸歯学部（H2 卒）
専門：高齢者歯科
資格：日本老年歯科医学会認定医、指導医、専門医
摂食機能療法専門歯科医師
歯科医師臨床研修指導医
東京歯科大学 非常勤講師
昭和大学歯学部 非常勤講師
日本大学松戸歯学部 客員教授



歯科口腔外科医長

齊藤 美香
(さいとう みか)

出身：日本大学松戸歯学部（H7 卒）
専門：老年歯科
資格：日本老年歯科医学会専門医・指導医
日本顎咬合学会かみあわせ認定医
歯科医師臨床研修指導医

【常勤医】

森 美由紀 (もり みゆき)

診療科の特徴

歯科口腔外科では、様々な併存疾患をお持ちで、服用薬剤の影響、疾患による身体機能低下などにより、歯科治療などが困難な高齢者の方々への対応を広く行っております。対象は、在宅療養者、介護保険施設入所者などの方への対応もさせて頂いております。治療の際は、必要に応じて他科医師等と連携し包括的な評価を実施し、安心安全な医療管理の下に歯科診療を行っております。

また、認知症高齢者の方への対応も行っております。以上の要介護者高齢者患者の方への口腔衛生管理・指導・助言などを、歯科衛生士が中心となり実施しております。

オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害に対する評価および管理指導なども、専用の機器を整備し実施しております。

診療スタッフは常勤医 3 名、非常勤医 2 名、研修医 2 名です。

スタッフ（以下、重複あり）は老年歯科医学会指導医（2 名）・専門医（3 名）、摂食機能療法専門歯科医師（1 名）、日本口腔外科学会指導医・専門医（1 名）・認定医（1 名）日本補綴歯科学会認定医（1 名）であり、質の高い医療の提供に努めております。

また、当院は日本老年歯科医学会認定施設であり、高齢者の診療を通じて、研修医育成、大学の選択実習受け入れなどを積極的に行っています。

主な対象疾患

- ハイリスク患者への歯科治療：抗血栓療法（ワーファリン、ブラザキサ、イグザレルト、バイアスピリン、プラビックスなど）を受けている方の歯科治療を同療法維持下に行います。血液疾患（白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）などのため、出血しやすい、あるいは止血しにくい、そして口腔粘膜が脆く、弱くなっている方には、状況に合わせて適宜治療を行います。心臓弁に対する手術既往例などの歯科治療では、主治医と連携し治療を行います。骨吸収抑制薬（ビスフォスフォネート製剤など）服用例では、処方医と連携しつつ抜歯、また骨吸収抑制薬関連顎骨壊死例の治療を行っています。
- 認知症高齢者の方々への歯科治療、口腔衛生管理を行います。
- オーラルフレイル、口腔機能低下（滑舌定価、咀嚼機能低下、咬合力低下など）、摂食嚥下障害の症状をお持ちの方に対し、評価および管理指導などを専用の機器を整備し実施します。
- 習慣性、あるいは陳旧性顎関節脱臼（顎がはずれる）例の整復固定を行います。
- 顎関節症あるいは関節リウマチ例の顎関節における症状に対し、咬み合わせの改善、筋痛の治療を行います。
- 舌痛、白板症など口腔粘膜疾患の診断と治療を行います。
- 顎顔面口腔の腫瘍（細菌感染から化膿して膿がたまる疾病）の治療を行います。
- 顎顔面口腔の外傷（転倒転落など）の治療を行います。
- 地域歯科医師会、医師会との医療連携を行います。歯科医師会からのご紹介の場合、当センターで必要な検査や治療を行い、ご紹介目的が達成された後、患者さんは歯科医師会のかかりつけ医に戻ります。

得意とする分野

高齢者の方々の口腔環境はここ 20 年で大きく変化し、歯科医療の需要も変化を遂げました。つまり、う蝕、歯周疾患などの口腔疾患治療また義歯作製だけでなく、口腔機能（摂食嚥下機能など）の維持回復への支援を担うことを求められつつあります。こういったニーズに応えるために、口腔機能支援センター（Tokyo Metropolitan Geriatric Oral Health Center : GOC）を設立しました。GOC は、当センターがこれまで培ってきた、地域在住高齢者、フレイル高齢者さらに要介護高齢者（在宅療養高齢者、認知症含む）への口腔疾患のみならず、口腔機能を維持回復するためのノウハウを効率的に地域で推進するための機関として、病院部門歯科口腔外科と研究所部門口腔および栄養関連研究グループとが連携して運営しており、その事業の一つとして専門職を対象とした研修会（摂食嚥下機能、栄養、認知症関連）を年間 5 回程度行っており、その開催情報は当センターのツイッター（<https://twitter.com/tmghig>）でお知らせしております。

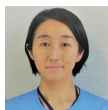
スタッフ紹介



麻酔科部長

小松 郷子
(こまつ きょうこ)

出身：岐阜大学（昭和 60 年卒）
資格：日本専門医機構認定麻酔科専門医
日本麻酔科学会認定指導医
日本麻酔科学会代議員
社会医学系指導医・専門医
日本老年麻酔学会評議員
日本救急医学会認定 ICLS/WS ディレクター
AHA-BLS/ACLS インストラクター
インフォメーションコントロールドクター
医療安全管理者
臨床研修指導医 / 麻酔科標榜医 / 緩和ケア研修会修了 /
DMAT 隊員（厚生労働省）
医学博士（東京大学）
東京消防庁救急相談医



麻酔科専門部長

縄田 瑞木
(なわた みずき)

出身：群馬大学（H11 年卒）
資格：日本麻酔科学会認定専門医・認定医
日本老年麻酔学会認定医
麻酔科標榜医 / 緩和ケア研修会修了（厚生労働省）
JRACE 合格



麻酔科専門医長

久保田 涼
(くぼた りょう)

出身：日本医科大学（H12 年卒）
資格：日本麻酔科学会認定専門医・認定医
日本老年麻酔学会認定医
臨床研修指導医 / 麻酔科標榜医（厚生労働省）



麻酔科専門医長

秋山 絢子
(あきやま じゅんこ)

出身：旭川医科大学（H18 年卒）
資格：日本麻酔科学会認定指導医
日本麻酔科学会認定専門医
麻酔科標榜医（厚生労働省）
ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会）
日本区域麻酔検定試験（J-RACE）合格（日本区域麻酔学会）

【常勤医】

清水 啓介（しみず けいすけ）

資格：日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定医、麻酔科標榜医（厚生労働省）

富田 大信（とみた ひろのぶ）

資格：麻酔科標榜医（厚生労働省）、AHA-BLS/ACLS インストラクター、日本専門医機構認定麻酔科専門医

児玉 瑞穂（こだま みずほ）

資格：麻酔科標榜医（厚生労働省）、日本麻酔科学会認定医

診療科の特徴

当センターの麻酔科は主として手術のための周術期全身管理を行っています。常勤医 7 名・週 3 日以上
の非常勤医が 2 名、週 1 日の非常勤医が 6 名と合わせて 15 名のスタッフがおり、専門医以上 12 名、認定
医 2 名、標榜医 1 名と質の高い麻酔診療を提供しています。

高齢者は体力が低下しているだけでなく、数多くの病気を抱えていることが多いため、手術の際にはより
多くの知識や高い技術が必要になります。当麻酔科では術前からいねいな検査を実施し、身体所見だけで
なく、手術前からの栄養介入や運動療法も提案しつつ、生活環境やご家族とのかかわりも含め、患者さんひ
とりひとりに最善の麻酔方法を考えます。そして十分な説明を行ったうえで、高齢者の手術麻酔に習熟した
スタッフが、エコー・脳波解析モニター・心機能モニターなどを含めた最新の設備や機器を用いて診療を行
っています。

主な対象疾患

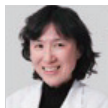
外科・整形外科・心臓血管外科・呼吸器外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・精神科の ECT・
眼科・歯科口腔外科・細胞療法科の骨髄移植を含むすべての診療科の手術麻酔に対応しています。また、緩
和ケア内科入院中の患者さんの疼痛管理にも対応しています。

得意とする分野

- 90 歳以上の超高齢患者さんの手術麻酔
- 高度認知症患者さんの手術麻酔
- 糖尿病や透析などの合併症をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- 心臓や呼吸器疾患をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- その他、特殊な病気をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- ほかの病院では手術が難しいと言われた病気をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔

リハビリテーション科

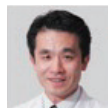
スタッフ紹介



リハビリテーション科部長

金丸 晶子
(かねまる あきこ)

出身：京都大学 (S61 卒)
専門：内科一般
資格：日本リハビリテーション医学会認定臨床医
リハビリテーション科専門医
日本リハビリテーション医学会指導責任者
日本認知症学会認定専門医
義肢・装具等判定医



リハビリテーション科専門部長
救急診療部専門部長

加藤 貴行
(かとう たかゆき)

出身：旭川医科大学 (H2 卒)
専門：神経内科学
資格：日本リハビリテーション医学会認定臨床医
リハビリテーション科専門医
日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本認知症学会認定専門医

【常勤医】

正田 奈緒子 (しょうだ なおこ) **齊藤 陽子** (さいとう ようこ)

【シニアレジデント】

全 秀剛 (ぜん しゅうご)

診療科の特徴

当科では主に入院患者を中心とした急性期リハビリテーションを行っています。高齢者では入院前より複数の疾患を合併し、要介護状態であることも珍しくありません。合併症や社会的背景なども含めた総合的な評価を行い、急性期の病状変化に合わせた、より適切なリハビリテーション介入を心がけています。

病院 3 階のリハビリテーション室は、窓が大きく明るいオープンスペースで、屋上庭園には屋外訓練用歩行路も併設されています。言語聴覚療法などの専用個室、ADL 練習室、義肢装具室等も完備されています。

障害の状態に応じて、理学療法士 (PT)・作業療法士 (OT)・言語聴覚士 (ST) など、総合的なアプローチを心がけています。

主な対象疾患

- 脳血管障害
- 運動器疾患
- 神経変性疾患
- 心疾患・動脈硬化性疾患
- 呼吸器疾患
- 廃用症候群 (外科術後・肺炎・消化器疾患・膠原病など)
- 悪性腫瘍
- 高次脳機能障害 (頭部外傷、アルツハイマー型認知症、その他の認知症など)
- 上下肢痙縮、体幹痙縮、痙性斜頸 (脳血管障害後遺症、成人脳性麻痺など)

得意とする分野

【入院リハビリテーション】

全科の入院症例を対象に様々な疾患に対してリハビリテーションを実施しています。

- リハビリテーション医・PT・OT・病棟看護師・栄養士などによる廃用防止ラウンド (2015 年 1 月 -2023/8 月) の成果を踏まえ、2023 年 8 月から看護師と協力しながら一つの病棟で『離床開始チャート』の運用を開始しています。今後は他の病棟にも広めていくことを考えています。
- NST 参画：Nutrition Support Team の中心的メンバーとしてリハ医・ST が回診します。
- 地域包括ケア病棟：通常のリハビリテーションに加え、専従 PT と看護師が協働する病棟リハを実施しています。
- SCU：Stroke Care Unit 専従 PT を中心に発症早期からリハビリを開始し、在宅や回復期へつなげるリハビリを提供します。

【外来リハビリテーション】

原則として当院退院後、適応のある方には短期間のみ行っています。介護認定を受けておられる場合は、医療保険のリハビリテーションではなく、原則、介護保険でのリハビリテーションとなります。

【専門外来】

- 装具診：医師・PT・OT・義肢装具士で装具の適応や種類などを検討・作製します。
- ボツリヌス外来：主に脳血管障害後遺症や成人脳性麻痺の痙縮、痙性斜頸を対象としています。診察・評価・適応の判断・治療・リハビリテーションを総合的に行います。
初診：火曜午前、治療：火曜午後
※ 要予約、詳細はリハビリテーション科までお問い合わせください。
- 高齢者いきいき外来：軽度認知機能障害 (MCI) を対象とした外来です。ST や臨床心理士で軽度認知障害の評価を行い、その結果に沿って、生活指導 (運動・机上課題などの提案も含む) を行っています。
※ 要予約 初診：月曜午後、火曜・木曜午前
初診時に神経学的診察、記憶検査等を実施し、MCI かどうか判断します。その後、アルツハイマー病、レビー小体型認知症等の鑑別診断に必要な検査を行います。
後日、ご紹介いただきました患者さんの結果をご報告いたします。

スタッフ紹介



放射線治療科部長

角 美奈子
(すみ みなこ)

出身：熊本大学（S61 卒）
資格：日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医



放射線治療科医長

由井 宏道
(ゆい ひろみち)

出身：東京医科大学（S55 卒）
資格：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医
日本気道食道科学会専門医
身体障害者福祉法第 15 条指定医
耳鼻咽喉科難病指定医
医学博士

診療科の特徴

X 線・電子線による放射線治療を行っています。
2021 年 5 月に最新の放射線治療装置になり、画像誘導放射線治療や定位放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT）などの高精度な放射線治療が可能となっています。
放射線治療装置や治療技術、画像診断の進歩の恩恵により、より必要な範囲に最適な放射線量を使用して治療する時代になっています。
さまざまな病気をお持ちの方や年齢的な問題を抱えた方など、治療に不安がある方には相談しながら、よりよい治療をすすめています。
放射線治療専門医（経験 30 年以上）、経験 5 年以上の放射線技師が担当しています。
受診時には紹介状と画像（CT / MRI / RI など）をご持参ください。

主な対象疾患

- 肺癌：通常の放射線治療に加え、リンパ節転移のない小型の非小細胞性肺癌には体幹部定位放射線治療（SBRT）を行っています。
- 直腸癌：術前治療として短期放射線治療を行っています。
- 白血病などの造血幹細胞移植の前処置として、全身照射（TBI）を行っています。
- 皮膚癌など表在性の腫瘍に対して、電子線治療を行っています。
- 悪性腫瘍ではありませんが、ケロイドの放射線治療も行っています。
- 乳癌に対する乳房温存療法後の放射線治療を行っています。手術された病院への通院が困難な方や放射線治療装置のない病院で手術された場合など、他施設の患者さんにも行っています。
- 前立腺癌では泌尿器科によるスペーサーと金マーカーの埋込により、より放射線治療の副作用を減らす工夫をした治療を行っています。
- 緩和ケア内科との連携で、緩和的放射線治療を行っています。
- 高齢者の放射線治療は入院および外来での放射線治療を行っています。状況に合わせ、なるべく体調の変化や副作用などが少ない治療を提供しています。

得意とする分野

- 肺癌の放射線治療は高齢者や肺機能低下のある方を含め、多数の治療を担当してきました。皮膚癌や骨軟部腫瘍、脳腫瘍など希少がんの放射線治療の経験も豊富です。
- 緩和的放射線治療については骨転移の 1 回照射をはじめ、さまざまな状況に対応した放射線治療を提供します。外来治療も可能です。
- 強度変調放射線治療（IMRT）は、前立腺癌をはじめ脳・頭頸部・胸部・腹部・骨盤部の様々な臓器に対応可能です。

2016-2020 年の放射線治療症例の原発部位			
部位	症例数	部位	症例数
肺	166 件	頭頸部	33 件
乳腺	70 件	泌尿器（前立腺など）	45 件
血液（悪性リンパ腫など）	88 件	皮膚	34 件
消化管・消化器（食道・肝胆膵など）	81 件	その他	50 件
総 数			567 件

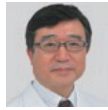
スタッフ紹介



臨床検査科部長

増田 義重
(ますだ よししげ)

出身：筑波大学（S58 卒）
資格：ICD（インフェクション・コントロール・ドクター）理



病理診断科部長
臨床検査科専門部長

新井 富生
(あらい とみお)

出身：浜松医科大学（S59 卒）
専門：高齢者病理学、消化管病理、腫瘍病理
資格：病理専門医・病理専門医研修指導医
日本病理学会学術評議員
細胞診専門医
臨床検査専門医・臨床検査管理

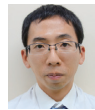
診療科の特徴

- 高齢者の QOL に配慮した安心・安全な検査対応を心掛けています。
- 外来採血 8:00 開始により、外来診療前検査、外来化学療法などに迅速対応しています。
- 土日・休日夜間を含め、24 時間体制で高齢者急性期医療を支援しています。
- パスキュララボを立ち上げ、血管超音波検査の臨床要望に応えています。
- NST、ICT、AST などチーム医療に参画して中心的に活動しています。
- 医療技術の向上はもとより、臨床研究開発にも積極的に協力しています。
- 新型コロナウイルスの PCR 検査は、終日、1 時間以内に結果報告をできる体制を構築しています。

取り扱う検査

- 検体系検査（生化学、血液、一般、免疫、緊急）
認定技師：認定血液検査士／1 名
- 細菌検査
認定技師：認定臨床微生物検査技師／1 名
感染制御認定臨床微生物検査技師／1 名
- 生理機能検査
日本超音波学会研修施設認定
超音波専門指導医
認定技師：超音波検査士／7 名
血管診療技師／3 名

スタッフ紹介



放射線診断科医長

鈴木 文夫
(すずき ふみお)

出身：東京大学（H22 卒）
専門：神経放射線画像診断
資格：医学博士
放射線診断専門医
日本医学放射線学会研修指導医



放射線診断科部長

徳丸 阿耶
(とくまる あや)

出身：三重大学（S60 卒）
専門：神経放射線診断、認知症画像診断、神経変性疾患画像診断
資格：博士（医学）
日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
日本医学放射線学会認定指導医
日本専門医機構専門医
日本神経放射線学会名誉会員



放射線診断科医長

高田 晃一
(たかだ こういち)

出身：帝京大学（H10 卒）
資格：博士（医学）
日本医学放射線学会研修指導者
放射線診断専門医

【常勤医】

張 申逸 (ちょう しんいち) **佐々木 舞** (ささき まい)

診療科の特徴

当科は、病院全ての科の診断を支える「画像診断」を行っています。21 世紀における画像診断技術は想像を越え、日々進捗しており、人工知能による画像診断まで日常臨床に取り入れられようとしています。癌、脳血管障害、認知症、COVID-19 肺炎、心臓疾患、救急のあらゆる疾患を迅速に、正確に診断するために、適切な検査を選択し、そこで得られた「画像情報」を、正しく診断する道筋を示すことが、私達の役目です。

当科では、X 線写真、CT、MRI、核医学、PET など最先端の検査機器を駆使するために、診断の専門家医である放射線科医と、検査技術の専門家である診療放射線技師、看護師、事務スタッフなどが協力し、よりよい診療を皆さんに提供するために努めています。

特に当科は、高齢者に特化した画像診断、認知症の鑑別診断を得意としています。長寿を寿ぐ社会の本邦は世界に先駆け、百寿者 8 万人の超高齢化社会に突入しています。高齢になればなるほど増えてくる癌、認知症、血管障害は私達が立ち向かうべき大きな課題ですが、それぞれの領域で、センター先生方、多くのスタッフと手を携えながら健康長寿を目指し、「適切な時期の正確な診断」に邁進してまいります。

また当科は、研究部門の神経画像研究チーム、神経病理、高齢者ブレインバンク、認知症未来社会創造センターと強い連携を結び、高度の診療、研究レベルを維持しています。

主な対象疾患

放射線診断科では画像診断の対象となるあらゆる疾患に対応しています。
癌診断、認知症、血管障害、急性疾患など

得意とする分野

放射線診断科で取り扱っている主な検査は以下の通りです。

- C T （コンピューター断層撮影）
マルチデテクターヘリカル CT、デュアルエナジー CT による薄いスライスでの画像診断による診断精度向上、検査被曝量の軽減を実現し、全身の多様な疾患で生じる画像所見を丁寧に拾い上げ正確な診断に結び付けています。
- M R I （磁気共鳴画像）
腹部領域では MR 脾胆管造影による肝臓、胆道系検査、また拡散強調画像 \ADC 検査を組み入れた前立腺癌検出に優れた撮像を施行しています。
M R I は中枢神経系の診断に有用な診断ツールです。脳血管障害の緊急に 24 時間対応しており、また通常検査に加え MR アンギオ、出血に敏感な撮像法、さらには 3 次元データによる解析で認知症を来すアルツハイマー病や嗜銀顆粒性認知症、前頭側頭葉型認知症、てんかん原因検索などに力を発揮しています。
- 骨密度検査
骨密度を保つことは、高齢者の日常生活動作を円滑にするために欠かせません。そのためには、まずご自分の骨密度の状態を知ることが大切です。
- マンモグラフィ
乳がん診断に役立ちます。
- R I （核医学）検査
骨シンチグラフィ、脳血流検査による脳血管障害、認知症診断、さらにはパーキンソン病国際診断基準に記載されている MIBG 心筋シンチグラフィ、ダツスキャンなどを日常検査として施行しています。
- P E T （陽電子放出断層撮影）検査
¹⁸F-FDG という薬剤を用い、癌や炎症病巣を特定し、良悪性の鑑別、転移病巣の有無、治療効果判定、再発の有無、さらにはアルツハイマー病などの認知症疾患、てんかん、大型血管炎などの診断にも役立ちます。
¹³N- アンモニアを用いて、他の検査では診断がつかない虚血性心疾患の診断に用いられます。新たに保険適用検査となって活用が期待されています。

【2 年次】

今井 洋介（いまい ようすけ）

小林 茉愛（こばやし まい）

舟川 開（ふなかわ かい）

福島 薫子（ふくしま かおるこ）

西頭 麻希（にしとう まき）

秋富 友佑（にしとみ ゆうすけ）

佐藤 宏樹（さとう ひろき）

林 拓海（はやし たくみ）

大沢 啓（おおさわ ひらく）

【1 年次】

岡田 璃瀬（おかだ りせ）

中山 英雄（なかやま ひでのり）

吉井 元（よしい げん）

鈴木 淳史（すずき あつし）

林 利樹（はやし としき）

和田 都花（わだ みやか）

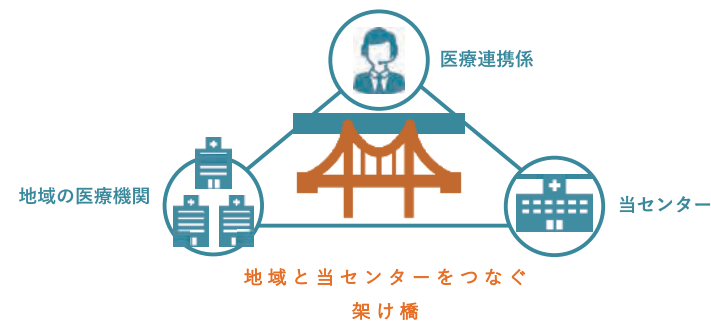
宮内 祐弥（みやうち まさや）

孫田 皓康（まごた ひろやす）

佐藤 はるか（さとう はるか）

医療連携係とは

地域の皆さまに安心・満足してご利用いただける病院として、地域のかかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関や施設等を“つなぐ”窓口です。医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービスをお受けいただけるよう、地域と当センターをつなぐ架け橋となり、円滑な前方連携を図ることを役割としております。



主な業務内容

- 地域医療機関からの各種お問い合わせ窓口
- 外来診察／検査の予約調整
- 入院（緊急を除く）／転院に関するご相談・調整
- 医療機関への各種返書管理
- 各種研修会／公開講座・CPC等の開催
- 広報（診療科のご案内・地域連携NEWS等の作成）
- かかりつけ医紹介窓口による逆紹介
- 連携医との地域連携
- 各種統計業務
- その他医療連携に関する調整業務



「地域連携NEWS」

お問い合わせ

医療連携係



03-3579-6963（直通電話）



03-3964-1392（直通FAX）

平日9：00～17：00まで（土日祝日／年末年始を除く）

13 連携医制度のご案内

連携医とは (<https://www.tmgig.jp/hospital/community/guide/>)

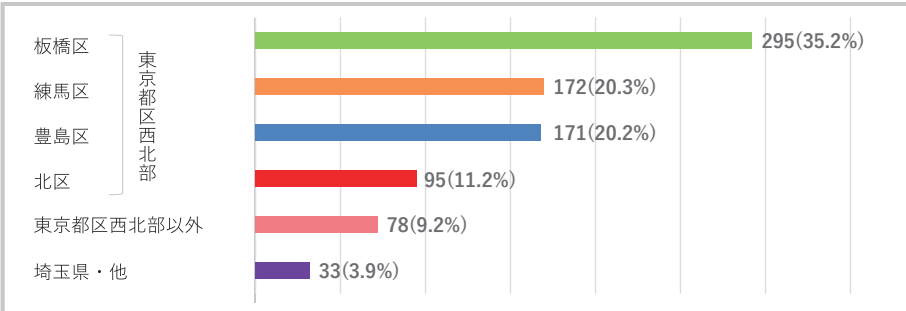
当センターでは、地域の医療機関の先生方と相互に連携し、適切な役割分担のもと、患者さんに一貫性のある良質な医療を提供しております。なかでも当センターとより緊密な連携を結んでいるのが連携医です。

連携医の先生方は、地域での豊富な診療経験を持つ医師です。かかりつけ医として日頃から患者さんの健康状態を詳しく把握し、定期的な検査や病気の初期治療、慢性疾患の治療を行います。病気になったときや健康管理上の相談やアドバイス等も行っています。

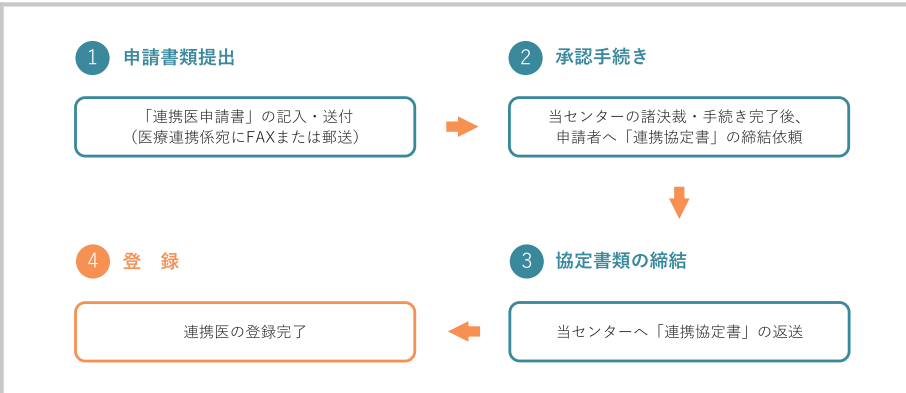
当センターは、急性疾患または重症な患者さんの治療を主とする急性期病院として、連携医からの紹介のもと、より詳しい検査や入院、手術等の専門的な診断・治療を行ってまいります。

このように、地域の各医療機関がそれぞれ役割分担し、相互に連携して患者さんの診療にあたることで、より多くの患者さんに質の高い医療を効率的に提供することが可能となります。

連携医療機関登録状況 (2023年3月31日現在)



登録方法



連携医の特典

迅速な受入れ対応	スムーズな診察予約	優先的なご紹介
救急担当医や該当する診療科の連携当番医が迅速にお受入れし、速やかな治療開始に努めます。	ご紹介いただいた患者さんのスムーズな診察予約を行います。(医療連携係でもご予約を承ります)	当センターから逆紹介機関として、優先的にご紹介いたします。(かかりつけ医紹介窓口の紹介含む)
連携医療機関情報の掲載	各種ご案内の送付	
当センターのホームページや各種案内誌に積極的に連携医療機関情報を掲載させていただきます。	毎月の「外来医師配置表」や当センターで開催する研修会や懇親会等のご案内を都度ご案内させていただきます。	

在宅医療連携病床へのご入院

患者さんが在宅での生活を継続するため、連携医からの要請のもと、一時的（原則として2週間以内）に、ご入院を受入れさせていただきます。

老年症候群による低栄養、褥瘡、摂食・嚥下機能等の評価や罹患している病気の現状評価を実施します。そのほかにも全身状態を把握するためのCT等の画像検査や生理機能検査、内視鏡検査等の評価目的のご入院もお受けしております。なお、病状評価の結果、専門的な治療が必要な場合には、専門となる診療科へご紹介させていただきます。

また、介護者の体調不良や不在時におけるレスパイトケアでのご入院も対応しております。

ご入院をご希望される場合は、医療連携係までご連絡ください。

栄養指導外来のご依頼

連携医の先生が糖尿病や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病治療において、栄養管理士による栄養食指導が必要と判断された患者さんを対象に以下の内容で栄養指導外来を開設しております。

- ・ 指導回数は2～3回程度を目安としております。
- ・ 指導終了後、指導内容について連携医の先生にご報告いたします。
- ・ 保険診療の範囲内での指導を想定しています。

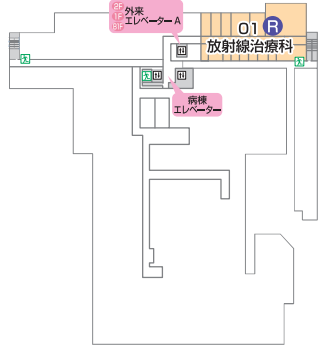
ご利用にあたっては、事前のご予約が必要です。医療連携係までご連絡ください。

14 施設のご案内

全体図



B1F



R: 放射線治療科

1 F



E: 渋沢栄一像 F: ビオトープ

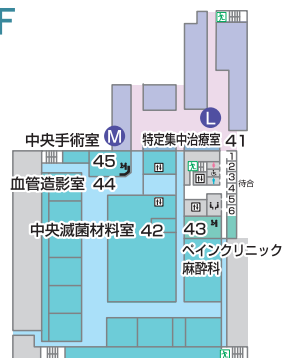
2 F



3 F



4 F

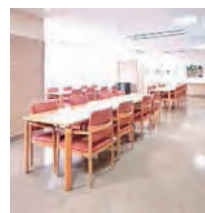
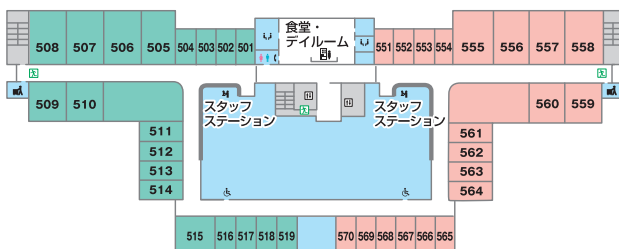


L：特定集中治療室



M：中央手術室／血管造影室

5 F～11 F



食堂デイルーム



特別室 S



個室 B



個室 C

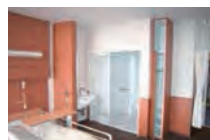
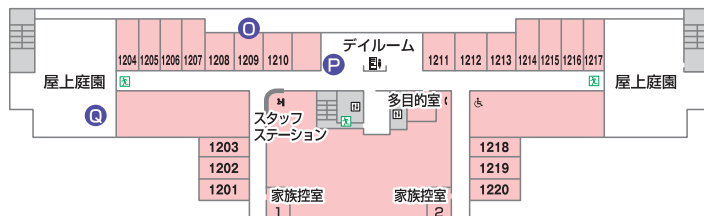


個室 D



多床室

12 F



O：緩和ケア病床



P：家族控室



Q：屋上庭園

各種電話番号

15



予約センター

03-3964-4890

(外来受診予約に関するお問い合わせ)



脳卒中ホットライン (脳卒中かもしれない患者の診察依頼)

080-4116-1141

医師が応答して受け入れます。
(結果的に脳卒中でなかったとしても問題ありません。)



医療連携係

03-3579-6963

(医療機関からのお問い合わせ全般)



がん相談支援センター

03-3964-5946

(がん相談に関するお問い合わせ)



代表電話

03-3964-1141

(当センターへのお問い合わせ全般)



東武東上線をご利用の場合 大山駅下車、南口・北口より徒歩4分
 都営地下鉄三田線をご利用の場合 板橋区役所前駅下車、A3出口より徒歩11分



東京都健康長寿医療センターは、
 高度な医療を提供することを目的とした急性期型病院です。